

昭和三十七年九月二十七日招集

第三回市議會定例會々議錄



昭和三七年度館山市議会第三回定例会々議録(第一号)

昭和三七年度九月招集

一九月二十七日(木曜日)

一現在議員三三名でその氏名次の通り

一番	山本 昇	二番	石井 孝
三番	三沢 節	四番	小林寅之助
五番	江田徳太郎	六番	鈴木彦太郎
九番	吉田勇治郎	一〇番	佐野 信
一二番	嶋貫壮作	一三番	安沢徳順
一四番	法木嗣郎	一五番	嶋田 繁
一六番	遠山ヨネ子	一七番	志村信作
一八番	安西政治	一九番	田中忠蔵
二〇番	北山茂雄	二一番	後藤ゆき
二二番	田中禄郎	二三番	吉田辰雄

二四番	飯田義男	二五番	脇田順一
二六番	岩崎靜敬	二七番	鈴木市藏
二八番	加藤良太郎	二九番	萩生田七郎
三〇番	長谷川光江	三一番	田村喜久工
三二番	鈴木孝	三三番	山口幸三
三四番	松本藤太郎	三五番	黒川佐太郎
三六番	山口康		

一 議事日程 (第一号)

報告第一〇号	昭和三七年七月例月検査報告
報告第一二号	昭和三七八年八月臨時出納検査報告
報告第一三号	昭和三七九年九月例月検査報告
報告第一三三号	監査報告(一)(二)(三)畜場、大葬場、消毒所、保育所、市営住宅

第二 陳情書 (神戸小學校)



第三 通告貸出

第四 議案第四一號

館山市公営住宅建設工事請負契約  
の締結について

第五 議案第四二號

富崎小学校講堂及び給食室改築工事  
請負契約の締結について

第六 議案第四三號

館山高等学校用地の購入について  
消防団消防自動車用シャシーの購入に  
ついて

第七 議案第四四號

消防団消防自動車用ポンプ購入につ  
いて

第八 議案第四五號

消防団消防自動車用ポンプ購入につ  
いて  
消防団消防自動車用シャシー購入につ  
いて

第九 議案第四六號

消防団消防自動車用ポンプ購入につ  
いて

第十 議案第四七號

消防団消防自動車用ポンプ購入につ  
いて  
寄附の収納について

第十一 議案第四八號

消毒所を廃止するについて  
隔離病舎を廃止するについて

第十二 議案第四九號

隔離病舎を廃止するについて

第十三 議案第五一号

千葉県旧市町村職員恩給組合資産管理組合の設立について、

第十四 議案第五二号

国有財産の払下申請について

第十五 議案第五三号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について、

第十六 議案第五四号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について、

第十七 議案第五五号

館山市消毒手数料条例の制定について、

第十八 議案第五六号

昭和三十七年度館山市支分追加更正予算

第十九 議案第五七号

昭和三十七年度館山市特別会計国民健康保険支分追加予算

第二十 議案第五八号

資金前渡をなすことのできる経費に

ついで

議案第五九号

清掃用トラクの購入について

議案第六マ号

清掃用ダンプトラクの購入について

第二二議案第六一号

忠霊塔工事請負契約の締結について

第二三議案第六二号

会計機の購入について

第二四議案第六三号

宛名印刷機の購入について

第二五議案第六四号

乗用自動車<sup>の</sup>購入について

一、法第百二十一条による出席説明員

市

長

田村利男

助

役

小出武男

収

入

役

完

戸

貴

総務課長

山口

実

秘書課長代理

小倉

澄男

税務第二課長

多田

俊一

商工水産課長

羽山房雄

福祉事務所長

長谷川広治

厚生課長

伊藤幸太郎

保険課長

神作啓次郎

農産統計課長

吉田耕一

市民課長

利田正男

建設課長

新井重助

選管書記長

大嶋重義

消防署長

安藤竜吉

税務第一課長

高木哲三

企画室長

谷貝茂生

教 育 長

工藤和平

庶務課長

鵜沢貫寛

監査委員

川上 栄

一本議会の事務局長書記及び取員

事務局長

高梨清一

書記

太田博雄

同

兵藤恭一

取員

錦織睦子

出席議員 三二名

欠席議員 一名

午前 十時 開会



・議長（山本昇君）本日の出席議員数三十名。

こゝより第三回市議会定例会を開会いたします。

本定例会の議案説明のため田村市長、小出助役、  
完戸収入役、新井課長、利田課長、吉田課長、神作  
課長、高木課長、伊藤課長、長谷川所長、山口課長、  
多田課長、羽山課長、大嶋書記長、谷貝室長、小  
倉主事、工藤教育長、鶴沢課長、安藤署長、川上  
監査委員、以上の出席を求めまして、次で市報告い  
たします。

こゝ際市報告申し上げます。

こゝにびの三宅島雄山の噴火に伴い同島より乳児、  
老人、学童等一七五名余人が九月一日午後突然本市に  
避難するということになり、さうして本市はあげてこ  
の疎開を援助したうであります。当議会といつても

ーはあまりに急なことであり、マー、で、議長と後藤文教、民生委員長とともに、館山、枝橋に出迎え、歓迎した。マー、た。なお五日に、議員団幹事と相づかり、マー、当市内に疎開中の一七、マ、余名に、対、マー、マ、慰問を、いたすべく、相談した。マー、マ、結果、キャラメル二個づつを贈呈し、市慰問申し上げ、マー、た、で、市報告、いた、マー、ます。

次に県下十八市、職員団野球親善試合は、来月二日、三日の両日佐原市に於いて開催されますが、当館山市も例年通り、参加と決し、第一試合は強剛成田市チームと対戦することとなり、松本主持以下全ナインは多忙の中、数日前より猛練習を開始し、必勝を期しておりますので、中声援をお願いします。報告をいたします。



会議録署名員の決定を行います。

本定例会の会議録署名員に五番議員江田徳太郎君、一六番議員田中忠藏君、以上二名を指名いたします。これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)や異議なしと認めます。よつて決定いたします。

会期の決定を行います。

本定例会の会期につきまして議会議決会の意見は本日より明後九月二十九日まで三日間ということであります。

おはかりいたします。会期を三日と定めすることにや異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(山本昇君)市奥議事録と認めます。ふつて会  
期は三日と決定いたしました。

本日の議事はお手元配付の日程表により行います。  
日程第一報告第一号乃至第一三号を上程いたします。  
(書記朗読)

報告第一号 昭和三十七年七月例月検査報告

報告第二号 昭和三十七年八月例月検査報告

報告第三号 昭和三十七年九月例月検査報告

報告第一三号 監査報告について(と畜場、大葬場、消毒

所、保育所、市営住宅)

(監査委員川上栄君登壇)

・監査委員(川上栄君)報告第一号去る七月一三日実施の  
たしきりた例月検査の結果を市報告申し上げます。  
詳細につきましては、お手元に配付してあります。報

告書の通りでありますが、そう大要を申し上げますと六月中の市税の収入は、六百九十一万六千円でありまして、収入累計額四千八百五十万円となりまして納期到来分に対しまして収入歩合は、六三・八％であります。前年同期に比較しますと、一・一％上昇しております。

市税の収入未済額一億一千六百三十八万二千円でありまして、納期未到来分が九千五百十四万九千円と納期未納付額が三百八十一万六千円あります。正味の滞納額は、二千五百四十四万八千円となります。このうちには、前年度の繰越一が千三百三十一万四千円含まれております。

六月中の市税収入は、六千六百七十万二千円でありまして、そうなりますのは、地方交付税の二千八百三十

六万三千円と前年度繰越越し分三十九万一千円、その他三百九十四万八千円等であります。

支出面を申し上げますと六月中の支出額は三千六百六十五万一千円、そのおもなものは市立館山高校の用地買収費六百万円、隔離病舎組合分担金が四百万円、衛生処理場電話架設工事費が七十五万三千円等であります。

支出の累計額は八千九十一万四千円となりまして予算額の一・四％を支出しております。

特別会計につきましては省略させていただきます。

報告第一号去る八月一三日実施いたしまして臨時出納検査の結果の大要を申し上げます。

市税の七月中の収入は千五百三十三万九千円、収入累計額六千三百三十八万六千円、納期到来分に対し

ます収入歩合は六一・三％で前年同期に比較いた  
ますと七％上昇してあります。

市税の収入未済額一億五百八十一万七千円、納期末  
到来分が七千四十二万五千円、納期未納付額二百  
八十四万を引きますと正味の滞納額は三千八百  
二十三万二千円となります。

税外収入は八百五十二万円であります。そのおもなも  
つは競輪収入が四百万、平和塔建設資金百万円等  
であります。

支出面を申し上げますと二千八百五十一万一千円であり  
まして支出の累計額は一億千四十二万五千円、  
予算額が二二・一％となります。

特別会計につきましては省略させていただきます。

報告第一二号九月一三日実施いたした例月検査

の結果の大要を申し上げます。

八月半の市税の収入は二十二万五千円、そのおもなものは、市民税の五百三十二万五千円、固定資産税は千十五万四千円、たばこ消費税は二百八十九万七千円、電気がス税は九十九万二千円、その他七十五万七千円、収入累計額は八千三百四十一万四千円となり、納期到来分に対しては、収入歩合は、七四・三%となり、さうして、去年同期に比較すると、二・二%低下しております。

市税の収入未済額は、九千百七万円の納期未到来分六千六百八万五千円、納期未納付額二百八十五万四千円となり、さうして、正味の滞納額は二千七百八十三万九千円、このうちには、前年度の繰越滞納分が千二百九十二万二千円含まれております。

税外収入は七百八十三万六千円ありまゝ、そのおもなものは、競輪収入の三百万円等であります。

支出面は四千六百六十二万三千円ありまゝ、そのおもなものは、衛生処理場工事費一千万円、公債元金償還金三百九万、市営住宅建設用地買収費、二百四十一万七千円、土木用ダンプ・カーの購入費百五十万円、商工祭委託費四十万円、隔離病舎組合負担金四十万、その他となっております。

支出の累計額は一億五千二百四十八千円で、予算の三・五%を支出しております。

特別会計につきましては、省略させていただきます。

報告第一三号出る八月一七日及び九月一・二・三日の三日間にわたりまゝ、と畜場消毒所、大葬場、市営住宅、保育園等の監査の概要を予報告申し上げます。



と畜場の三六年度の殺数は四七二九頭であります。前年度に比較しますと二四・九％増加しております。次に非消毒所につきまして申し上げますと、三六年度の消毒件数は三一件であります。前年度に比較いたしますと三一・一％減少しております。

火葬場について申し上げますと、三六年度の火葬取扱件数は三七六件であります。前年度に比較いたしますと一四・六％増加しております。次に三六年度の葬具の貸付件数は一〇二件、前年に比較いたしますと一三・三％増加しております。

市営住宅について申し上げますと、総戸数六三戸であります。三六年度の家賃の滞納額は二戸ありまして、その滞納額は一万八千四百円で延一スカ目分の滞納となっております。



保育園について申し上げますと保育料を徴収する  
場合に速やかに市金庫に払い込むべきものを数  
日間保管してあるものがありまゝです。

以上をもちまして監査報告を終ります。

議長（山本昇君）以上で報告第一号乃至第一三号に  
つらき一々説明は終りまゝです。

予算疑はございせんか。——なければ了承願  
います。

続いて日程第二陳情書を上程いたします。

（書記朗読）

議長（山本昇君）二四番議員君登壇の上説明願  
います。

（二四番議員飯田義男君登壇）

二四番（飯田義男君）本陳情書に対する紹介議員

と一々皆々までに一言お願い申し上げます。

陳情の内容についてはい、只今朗読いたしまして通りでございます。皆さんも既に承知と申します。が、神戸小学校の施設は、合併当時から現在までほとんど新築乃至改築をいたしておりません。当時私が引き継ぐときに相当手入れを加えたのでありますけれども、それについていっても震災以来三九年、その当時も既に古い材料で建てた校舎でございます。ほとんど腐朽す前にあるわけでございます。ちなみにバールで土台等をさして見ますと、「とうふにくぎ」といったような有様の場所もあるのであります。非常に危険な校舎になっております。最近教育長さんに伺いまして、たところが神戸の教室全部が既に危険

校舎になつてゐる。市長さんもう既に神戸は建て  
なければならぬ時期にきてゐる。こういうことを  
おっしゃつていたださまーだが、私達は今まで何とか  
がまんできるものはがまん——考へようということ  
現在までがまん——してきましたすけれどもい  
ろいろな個所がだんだん腐つていく。このまゝでは  
危険になつてきたので何とかこの際、新築を——いた  
だきたい。こういうふうにお願ひをするわけがござい  
ます。教育予算の均等なる配分ということに教  
育委員会でも言ひつてあります。神戸の小学校  
に対しては今まで新築を——予算というものは一  
つもないわけがございまして、この際皆まんう絶大  
なるの理解をお願ひ——たいと思ひます。簡単では  
ございませうが、紹介議員と——一言お願ひ申し

上げたゐると思ひます。

三三番(山本幸三君) 只今の陳情書の内容をみても紹介議員の説明を聞いてもかなり急を要するようない問題であると思ひます。さつちなるべく陳情書を採扱して早期待にさうふうに取りはかることを希望してゐます。

議長(山本昇君) おわかりいたります。本陳情書を採扱の上市長の方に送付することに仰異議ございませうか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君) 仰異議ナシと認めます。さつち本陳情書は満場一致採扱さうした。暫時休憩いたります。

午前一時四五分 休憩

午前一時二五分 再席

議長(山本昇君) 休憩前に引き続き会議を申します。  
この際市長の本定例会議案に関する説明を求めます。

(市長 田村利男君登壇)

市長(田村利男君) 本日ここに昭和三十七年九月定例会議を招集いたしました。当面する諸案件の審議をお願いすることになりました。本定例会は、市案内通り私の第二期任期中にござります。最終の定例会となるわけでございます。かえりみますと過去八年の間議員各位には終始よく御鞭撻をいただき、全員一致で御協力のもとに常

に積極的な支援を賜わりました点に対しまして厚くお礼を申し上げる次第でございます。

今回提案いたしまして各種議案はいづれも本年度当初において確定いたしましたもの、或いは計画はあつたが財源の見通しが判然とできなかったため、時期待ちとつたものがあります。

工事の契約三件、自動車等の購入六件、土地の購入関係二件、營造物の廃止二件、追加予算二件、その他三件合計二一案件となっております。

議案につきまして概要を申し上げます。

今回は議案第四一号からありまして、市営住宅建設工事の請負工事の締結についてもうであります。これは第二種住宅二戸の建設を指名競争によりまして渡辺建設株式会社と契約し

ようというものであります。

次が富崎小学校講堂及び給食室改築工事の請負契約であります。こゝは腐朽した講堂及び給食室を取りこわして若干広げて改築するものであります。こゝを指名競争入札にしております。石井工務店と契約しようとするものであります。

次が館山高等学校の用地買収の問題であります。今回は約二反歩現在買収土地の状況は配付してある議案の通りであります。

消防団の消防自動車購入であります。一つは柏崎、一つは長瀬賀地元のものが地元分団と慎重審議により決定したものであります。

次は寄付の収納についてであります。こゝは、北条の島根治氏から十万円を民生金庫の資金にとい

うことで寄付の申し込みを受けましたので、民生金庫資金として利用したいというものであります。次は消毒所の廃止、隔離病舎の廃止、兩議案ともに三芳村との組合立伝染病棟の完成によりまして不要と見る関係からこれを廃止しようとするものであります。

次に県下の市町村及び一部事務組合の一六六団体で結成されております、取真恩給組合が地方公務員共済組合法の施行によりまして共済組合制度は統一することになります。恩給組合の財源は残されることになりまして、たゞその管理組合を設けずるというものであります。

次に布良海岸のユース・ホステル用地とその附近のハッピー坪につきまして観光上の観点からこの際国に



対し、払下げ申請をしようというものであります。

次に国民健康保険条例の一部改正であります。

これは葬祭費の引上げと育児手当金の支出をするために改正であります。

次は市税条例の一部改正でありますが、これは地方税法の改正に伴う事務手続き上の改正であります。次に消毒手数料条例を新たに制定する件であります。これは消毒施設が伝染病棟に移りますと、あとは市民からの要請による家屋などの消毒だけを取り扱うこととなりますので、その手続きを収束していくについて新たに条例を依りまして従来の消毒の手続きを条例を廃止するというものであります。次に一般会計の追加更正予算であります。追加更正額は二千百七十二万七千三百円であり

まゝ今回追加の予算累計は五億千五百六十  
三万五千四百二十円となります。

追加の主なものを申し上げますと事務機械類の  
購入費約四百万円、乗用車約百十五万円、船形漁  
港等港湾改良工事負担金三百十九万円、那古  
地区市道改良工事費九十万円、道路用砂利代  
八十万円、義務教育教材費約六百万円、高等学  
校取組員給料改定による額が約八十五万円、船舶保  
育園増築費百万円、保育所関係の法律改正に伴  
う追加額二百万、平和塔建設費五十二万円、隔  
離病舎組合費負担金五十万円、農業構造改善  
事業その他農業関係費約三百二十八万円、市内  
商店街の街路灯建設に対する補助金百三十五  
万円、参議院議員選挙費に対する国の委託金

確定によります追加及び知事選挙費等の追加額約二十八万円、固定資産調査費約六十四万円等でありまして、そのほか、県の支出金、寄付金、その他特定財源が約六百十九万円となります。一般財源充当額は約千五百四十万とありまして、市民税の千十八万円とたばこ消費税五百三十五万八千円をもつてこれに充てる予定となっております。

次は国保会計の追加予算であります。二十六万七千円の追加でありまして、財源は金額前年から繰越金をもつて充てることになっております。

次に資金前渡の取扱いがでるよう議決していただくたい。経費として国が発行する印紙類の購入費として条例改正による国保の育児手当金をお願いしようとするものでございます。

次に清掃用のトラクを三台購入しようというものがありまして清掃の万金を期したいわけでございます。一台はダンプカー二台は普通トラクとしまして三台清掃トラクを購入する考えであります。次が平和塔の塔石工事の清負契約についてであります。遺族会の幹部の意向も十分考慮いたしまして石材の選定、設計等慎重に取り運ぶというふうなものであります。この塔の名称につきましてもその後遺族会から熱烈な希望もありません。ところで検討の結果忠霊塔と改めるようにいたしました。以上議案に關しまして極めて簡単に申し上げてまいりますが、なお一般会計の追加予算が亦賛同

が得らうまいたならば更に三案件ほど議案の追加をお願いいたく存しております。

各議案につきましても、更にその上程の都度関係課長から詳細に説明申し上げさせていただきます。ひととそ慎重や審議の上、や賛成下さるようになり願ひ申し上げましても、や挨拶といたします。

先般の三宅島の疎南者に対して、当市の活動状況についてや報告いたします。

全市をあげて暖かい救助活動が行われるであります。市としても全取員を動員することにいたしました。九月十四日無事帰島させることができました。この機会に市民皆々より非常なや協力に對しまして心から感謝申し上げます。次第であります。つきましても、巷間種々誤解

を招きまゝに義援金問題につきまゝ一言片断  
明申し上げたと思います。

三宅島学童疎南に対する義援金うち篤志者の  
もろ疎南の日から届けらるゝた。その総額は三四  
口十八万五千九百八十一円でありまゝた。学童疎南後  
現金的に非常に困るという話をあちこちから聞きこ  
ゝたうでお手元に既付の資料うように適宜分割し  
都の対策本部の據藏所に届けまゝた。一般募金  
は遅れまゝ四日の日に文書を発行いたしまゝた  
六日になりまゝ最初う持込みが那古寺地区の千八  
百円ほか二部落ばかりでありまゝた。八日頃から届  
けらる件数も増加いたしまゝた。一四日一応打ち切  
りしたが、二〇日に一部落が届けらるゝ合計一四一  
部落で三十五万七千六十八円となつたわけでございます。

これを資料のように三回に分けて送付完了いた  
ました。

次に市長名義義援金十万円についてでありますか、  
前にも述べましたように学童たちは現金に困つて  
いるということでありましたので、とりあえず六日  
正午までに市の福祉事務所に集まつてありますに  
うち、資料の第一回棟に丸印を付してある寄付者  
から市外拠出者から十万円を六日も届け  
たものであります。このときいろいろ金種別に  
なっておりますので福祉事務所が一万円札と交換し  
てお出しなすでもどうかということであつて袋に入  
れて館山市長田村利男と書かれたものを届けたい  
で、このとき時間的にも急いでありますので名  
簿を張ることもないままに答で寄付金の中う



第一回分であるという事を申しつてお渡しした。次等であります。が、発表する取員と受け取った取員と異動による違いがあつたために答で伝えに申うが伝へらなかつたもうであります。名簿を一諸に提出しなかつたことは、事務的の手落ちであります。か、夫一々依為的のもうであります。な。なお名簿は爾後う分と一緒に送付した。一一般募金につきましても一般募金である旨を伝えて届けまうたうで申す承載したいと思ひます。

最後に当市といつてまう三宅島疎南者に対する救助に要した事務的費用につきまう五万八千七百円。本日追加上程した。まうたうごまうくお願ひ申し上げる次第でございます。

以上一般議案並びに三宅島疎南者に対する活動



状況について簡単に申し上げた次第でございます。

議長(山本昇君) 日程第三通告質問を行います。

二五番議員 脇田順一 書登壇願います。

(二五番議員 脇田順一君 登壇)

二五番(脇田順一君) 私に里見城の建設計画について、質問したいと思ひます。

この問題は去る三月の予算市会に松本議員から通告質問があったものであります。確かに作るといふお答えだったと思う。しかし、その後計画もなければ最近に於いては、市長はあちこちで城山の問題は困ったものだと言わねばなるやうなうわさを聞いてあります。おそろくは今日の市長の腹の中では想像するところほとんど作る意志はないと私は推察するであります。

大塚田村市長が観光に熱心だとおっしゃるが、  
 实例を見ますというのと観光の施設の申し込みの  
 受入れを忠実にやってもらいたもうが大半であり  
 まーるただこう里見城や天主閣の問題だけは市  
 長がめめて意欲的であつてすばらーいものを張ら  
 なければだめだ。いゝ如減な小さなもので、人々  
 意表にでることが多い。富津の観音様以上の  
 ものを張つてさうさう都人種の目を止め、観光客  
 の誘致に一役かつてくれるのだということであつたこ  
 とを私ははっきりと記憶してゐる。当時私た  
 ちはここに城を張るということに對してはさうか  
 こつとえらゝい計画に對しては私はちやうど農  
 村出身の議員は難色をホーたうであります。  
 今日のお雨漏り校舎の教室も解消されず、いゝ

いろ、根本的な問題がまだ山積してゐるわけか  
わらず、こうして計画を持つということについて  
反対の意見を述べたものゝ一人であります。  
——かゝる更にまた考へて見ますというとき、館山市  
の観光は極めてよくなりました重大なことでありま  
す。市長が一つの問題を極めて意欲的にや  
つたのけるということ、市長の人柄にもか  
にも似つかぬこと、で面白い問題だと思ひ  
かえり、ここに賛意を表してゐたのであり  
ます。

里見城複元積立金条例を当時制定して既に二百  
五十万現にあるはずだ。ところがその後におきま  
す。すばらしい問題がや承知するように起つてま  
た、それは、京成南発が館山市に進出するに

つゞき一億の天守閣を建て、熊山市に寄  
 付するということとを約束したという話であり  
 ました。このことを市長は京成開発の社長と  
 一ば一ば会見して紳士協約を結んだといつて  
 おりますのであります。我々も喜んだ。ところが  
 がその後国有地の借入れの問題なども伴わずいつ  
 かその話は立ち消えになつてしまつた。私は  
 あのとき市長さんのすばらしい意気込みと  
 社長とたびたび会見して契約を結ばれたので  
 あるから、どつちが不信行為であるか。京成が約  
 束を破つたというのなら市長は断固として京成  
 に対して不信行為をなせるが望ましかつたと思ふ。  
 ところが市長自身も途中でもつてさっぱり追求し  
 たという話も聞かない。会社側はうめまにふります

市長が不熱心で土地やいろいろの問題に協カーないからできないのだ。館山市の方に責任をなすりつけようという態度である。市長またつい最近までは天主閣はーようがないのだ。二百五十万を基礎にー々小さな天主閣でないものを張ろうというすこぶる竜頭蛇尾な話になつてきておる。最近に於いてはそのことすらも市長に実行の意思がないのではないかと思うような節があるのだあります。かつ四年前に観光開発に役かつて出るうだと豪語された市長の政治的責任をこの際問いたいと思う。市長の任期もあきすところニヶ月かそこら。この公約を果さずして市長は去るうであるか。我々市民を騙着して次に張ろうとするのか。市長はやる意志

がたいとするならば、この際市民の前にかくかくの京成南発にも追求したうだけれどもうちあめかぬ、京成南発はとうとう約束を破った。そうして私たちをだましたのだ。こうやってたびたび追求したがついていうわけだという真相の発表が望ましいと思う。それから市報は積立金条例

を作るころには京成南発の一億の寄付ということはなかったものであるから当初において自力である。こういう意思で始められたと思う。そうだとすれば京成南発がたとえどうであろうともこれを完成するという考えを市長は捨てるべきでない。こうした市民の問はつめがれた問題がーリつぼみになり、いまにはやらぬで過ぎるといったふうなふうになり、ううな不信の態度は私は市長のためにすこぶる



遺憾だと思ふ。私は観光審議会委員の一人であり  
ますが、この京成南発が一億の天守函を張うて  
さうして寄付する。しかも無条件で寄付するといつ  
たさうな話を市長が観光審議会に公表したと  
きに私も委員の一人としてそこにおつた。私はそ  
うときさういつたことを覚えておる。むずかしい  
条件がつかひければことに結構な話だ。やそ  
もらつたらいいといふことをいつた。さうとき「俺に  
まかせろ」といふ言葉だった。はつきり覚えてお  
る。利漁会社だから何かここにあるのではなにか  
一億の金を館山市に寄付するといふことは考  
えられない。というふうなささやきがありまゝだ  
ところか市長はさういつた。我々貧乏人は百円の  
金をだすのに裏付の条件がどうこうというけしど

も京成南発は一日二億のもうけがある。一億位の金は半日分のもうけだ。金主の心をもつて大会社の心をほかのことは間違へてあるということをも覚えておる。それまでになつた天主堂の肉題がいつ立ち消えになつてしまつたか。会社側のいう市長が不熱心であるとするならば、それが理由であるというならば市長さんは不熱心でないという理由をかくかくの努力を——たけいども話はないかなうよく行かないということを率直に申し述べて市民の誤解を解くべきであると思うのであります。田村才

二期市政の末期に臨んでほつきりと私たちは南へまゐるたい。そう——今後にも対処——たいと思ひます。が果——て振るうか振らないのか振るならどの程度の規模でいつ振るうか。これは任期もありますところ



サ—カありませんからすくぶるこの言明を南へて  
もはつきりな姿でけありませんが、次期市長にも  
やっくらういたいと思う。以上市長の責任ある  
答弁を拝聴—たいと思うもうござります。

議長(山本昇君)二五番議員の質問に対する市長の  
答弁は午後二時三十分まで保留いたしまして休憩  
いたします。

午前 十一時五十分

休憩

午後 一時〇七分

再開

議長(山本昇君)午後二時三十分出席議員数三十名。

休憩前に引き続き会議を南めます。

二五番議員に対する市長の答弁を求めます。

市長 田村利男君 登壇

市長(田村利男君) 協田議員の里見城の問題について答弁申し上げます。

私八年前に市長に就任いたしましてから、何とか館山を發展させる方法をいろいろ考えたわけでございますが、その中でとりわけ観光に重点を置きたいというところは、一ぱ一ぱ皆さんう前で申し上げて通りでございます。一ぱ一ぱするためには、どうも外資を導入しなければ市の金だけでは大きなものは建設できないというふうなわけで一番初めにやり取りしたが、昭和三三年八月一日に完成いたしました南房総国定公園の発令でございますが、これに至りますには、約二年間いろいろな人に折衝し、県にも折衝し、国にも折衝いたしました。当時千葉県

から出た十五人の代議士全部を市招待申し上げました。南房総国定公園をまとめもらいたいということをお願いしたいことを記憶してもらいます。かようにあらゆる努力をほらいまいます。まづ南房総国定公園というものを三三年にもつてきたわけでございます。

それから、ユース・ホステルとか鳩山荘、最近には国民休暇村とかいろいろなものも県会議員さん、また地元の方の代議士の力になんぶりまして、ようやく決定したわけでございます。海員学校

にいたしまして、もう本当に一歩で新潟県に取つかさうだったものを代議士さんの力によつてこちらにもつてきていただいたというふうなことがあるわけでございます。こういうものを

いろいろ考えて何とかして全部合わせると十億以上の金が外資でもって館山市にこうげ込んでくるような情勢を何とかしてかち得ようとして成功したわけでございます。

そういうふうに私は館山市自体の税金からまかなうところの予算で大きな仕事ができるものではないという観点から今里見の城の問題について申し上げますが、これは昭和三年度の予算で百万円積み立てております。その後三年にわたって五十万ずつ積み込んであります。現在二百七十四万円、里見城についての積み込みが二百万あります。あそこに里見城があったなしにかかわらず、我々の夢である里見城というふうなものを建設したいという

ことを申し上げました。当時、市長は富津にある観音様より大きなものを建てると思った。と、おっしゃいました。が、三二、三年ごろは、おそらく土台もできているかっただと思えます。私は、そういう暴言を聞いた気持はさらにないわけがあります。いずかに――でも立派なものを作るにいかんども光ほどユース・ホステルやその他、問題についていいます。だが、館山市の税金だけでは足りないものではなけれども市もやるから、市民の皆さんも協力してもらいたいといっています。館山市の観光協会の方が強かに協力下さいまして募金を始めたというわけでございます。

話がちょうど三四年ごろになりますと、私京成の川崎社長と社長室で長谷川鹿之助氏と会ったとで館

山市で城を作ることは甚だ困難であるから、城を  
寄付してもらいたいということをはっきり申し上げま  
す。一にところそう席上、京城の社長は、白鷺ホテル、  
洲崎のホテルの計画、またゴルフ場の完成とい  
うものができたならば我々の方も東京から  
バスで何十台となくお客をつれてくるのでから  
そのお客の足ばり場として私の方として  
必要を感じるのでむろ市は地所を提供して  
もらいたい。あの地所は県立公園とかむづかしい  
問題になつておりますが、あらゆる努力をして市  
はそういうものを取りつけ、京城に提供するよう  
に努力します。

一階は会社の方に貸してもらいたい。二階は郷土出  
土品とかいろいろ歴史的なものを陳列するがよろしい

し、三階は展望台に使うがよろしい。そういう条件  
ならば、市会でも文句ないだろうから早くやつても  
らいたい。というふうなことで京成と約束したわ  
けでございます。その後、設備投資の抑制とい  
う大きな経済界の圧力のもとに日本どこでも困っ  
ておるといふ現状にありますので京成とて同じ  
境に巻き込まれておる。そういう状態であり  
ますので京成は今直ちに白浜、洲崎ゴルフ場、  
三つのものがござない現在、館山市にだけ三階  
の城を張るといふことは、想像することですが、  
無理ではないかと私思うらめてあります。

この四月、長谷川鹿之助氏に京成に催促して、  
くれませんか。というところ、長谷川さんは、  
「さうだよ、早く建てさせよう」といふことで催促するこ



とを約束いたしてまいりました。それにつづきましては、その後返事は来ません、そういうふうな決り方、城に対する意欲は今もって減退してゐるわけでは  
ありません。話がちよつと変になりましたが、京成  
が建つてくゆるならば俺たちの募金はひとまず  
中止しようじゃないかといふことで中絶状態にな  
つてあります。館山市といつても二百七十  
四万円の積み立てはしてあります、市自体で建  
てるにするならば平和塔の問題ではありません、  
同額以上の税金でない金を充てる。そういったもの  
が望ましいと考へてあります。市自体で建てる  
といふことは、一ぱらくおきまして京成さん待ちと  
いふことが現在の状態であります。それと去  
る三月の市会におきまして何かしら城でないも



のを二百七十四万円、金を使つて旅つたらどうかと  
いう発言もありました。たゞ大きな城はできないに  
しても、城には随分なものを建たないか、という意思は  
現在もつてあるわけでございます。こゝろ九月選挙  
前の市会にはどうかと思われまして、どなたがおや  
りになつても何らかの形でなければならぬとい  
う考えはもつておりますが、大きな里見城の  
建設につきましては、今更二千萬元、こゝろの  
ものでは、かえつて笑われるやうではないかといふこと  
で、できれば財界の復活と京成さんの中誠意に  
よつて最初う予定を完成して貰いたいといふ  
ことを希望してあります。当時中川に入りま  
した長谷川さんにも更に中協力を願ひする。  
かゝうなつもりであります。以上経過を中報

告申し上げまゝの説明にかえます。

二五番(脇田順一君) 只今、市長の説明によりますと、現在、天守閣ができていないのは、設備投資の抑制によるところの会社の主要なる理由をとられておりますけれども、私はさういふ市長の熱意の問題だと思ふ。真に市長が観光開発に熱心であるならば、今年、四月ですか、社長に会つて永田氏を紹介して督促する位、さういふのんびりとした態度では熱意が疑われると思ふ。それから、

当初に於いて、京成の約束は一階とか二階とかいう約束はあつたけれども、白浜開発、洲崎の開発、同時開発だ、という条件は、でなかつたのであります。奥に珍らしい無条件のやり寄りだと私たちは市長の話を聞き、それを了解してゐます。

市長さんの方がいろいろむこうの熱意を受け入れる  
のに、ルーズであつたから、もともと利潤会社であ  
るが故にさうした条件がだんだん出てきた。い  
ろいろ土地の問題を解決するとかさういったこと  
にもっと市当局が熱心であり、――――しばしば京成に  
通いつめであるならば設備投資の抑制に合わ  
ないうちに京成は張つていくはずであります。  
私はおやりも市長の熱意がえ――からさうした  
ずつぬいた状況になり、かつまた設備投資の抑  
制にもひつかかるような事態になつてたのであろ  
う。さらにさうしたのんびりした状態でいくならば  
田村市長さんへの問題は、おそらくできないと思ふ。  
もう一期おやりになつてもできないと思ひます。  
結局、市長の熱意、そのことがこの問題の解決

のやうであります。今後もうサー、サくとも約束したことは、履行するという政治的良心が市長さんに望まうと思つてあります。それだけ申し上げるところ問題を終ります。

・議長(山本昇君) 日程第四議案第四一号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第四一号

館山市公営住宅建設工事請負契約の締結について

・建設課長(新井重助君) 議案第四一号について、中説  
明申し上げます。

例年建設いたしております市営住宅でございますが、今年は大賀地先に二六〇〇坪あまりの地所を物色いたしました。その土地は、市の市会で予算

を議決していただきまして購入が済みました。  
それに伴いまして今年はその土地に二種住宅で  
ございしますが、昨年までは九坪でございしまし  
たが、今年の九坪五合、それを二戸建設する  
見込みでございます。

今月の十二日に渡辺建設株式会社、石井工務  
店、宇山工業株式会社、大千葉建設株式会社  
田辺工務店、富士土建株式会社、高橋工務店、美  
工務店、山崎工務店、新井建設株式会社、計  
八社、館山工業株式会社、この十二社を指名  
いたしまして入札いたしました結果、八百十八万  
円をもちまして渡辺建設株式会社が落札いた  
しまして、この会社を契約いたしました。建  
設しようというものでございます。

議長(山本昇君)おかけいたします。議案第四一  
号討論省略原案通り可決いたします。や異  
議ございませんか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)や異議ナシと認めます。よって本  
案は原案通り可決さした。

日程第五議案第四二号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第四二号 富崎小学校講堂及び給食室改築  
工事請負契約の締結について。

庶務課長(鶴沢貫寛君)議案第四二号についてや異  
議申し上げます。

この工事は市内業者一五名を指名いたします。  
一七九月十七日現場説明。二一日入札の結果、

四百四十四万円、石井工務店と契約したいという  
ものでございます。

今回増築いたします坪数は、図面にございます通り講堂の坪数が九一・五坪、給食室二二坪、渡廊下三一坪、七合五勺、合計一四五・二五坪でございます。取りこめー教室が九二坪でございます。

一八番（安西政治君）工事の契約締結については異議はないのですが、とかくお役所でやる工事というものは、期限が非常にずばらになつてゐる傾向があることは、やはりございと思つております。こういうた工事請負について、期限をどうしてきめておるか、それが履行できるか、できないときは、どういう措置を取るのか、なお民間の会社などにありまーまは、期限がうきうきいたり、非常に



工事がうまくいっただちに報償を出すというふうな  
ことまでやつた期限の厳守を非常に督促して  
おるうでございます。期限が延びることは我々市  
民が損することでもございますので、そういうた期限  
問題についての回答をお願いしたいと思います。  
建設課長(新井重助君)お答え申し上げます。

市営住宅にかかわらず一般の請負について申し  
上げますと一ハマ日なら一ハマ日の明記いたします。  
本年の市営住宅につきましては、来年の三月の九  
日頃が期限だと思っております。それによりま  
して全部の工事を完了いたしまして、会計検査  
院の検査に合うようにということとで昨年から  
厳重に期間の督促を行なっております。

なお資材の入手その他によりまして非常に手遅れ



の理由を出して、延期の措置を講じますが、その理由が薄弱の場合には一日につきまゝ請負金額の千分の一を徴収する。こういうことになっておりますので契約につきましては、嚴重に督促するつもりでございます。昨年よりそういう方向に向つてやっております。今後と同じようにやつていきたいと思ひます。

・庶務課長(鶴沢貫寛君)学校建築におきましても従前はや指標のような点がありましたが、今後是十分、そういう点に注意いたしましてや趣旨に添いたいと思ひます。

・一八番(安西政治君)当局が認めらるゝようにずばらな面があつた。今後は十分に監督して載さなといふことを要望して了解いたします。

一七番(志村信作君)この図面には取りこわしの方には五坪という物置がございますが、新築の方には物置がないうですが、物置は何をもつてかえることになり  
ますか。

庶務課長(鶴沢貫寛君)この物置は、今度新築いたします講堂の敷地の中に入りますうわけがございます。

一七番(志村信作君)そうすると講堂の一部を物置に使うのですか。

庶務課長(鶴沢貫寛君)取りこわさうというわけはさういう給食関係のものを入れるものではありませんが、  
ごったなものを入れる物置でございます。

議長(山本昇君)おはかりいたします。議案第四二号  
討論省略原案通り可決いたしますことに決めます。

ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君) 中異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第六議案第四三号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第四三号 館山高等学校用地の購入について

・庶務課長(鶴沢貫寛君) 館山高等学校用地の購入でございしますが、この図面をや覧願います。斜線を引いてありますものが交渉が残っておりまして、すが、その後仮契約ができましたので、今回議決をお願いしたいというものでございます。

・一七番(志村信彦君) 田を二畝一九歩、市で借りるというのはこの図面にありますか。

・庶務課長(鵜沢貫覚君) これは、図面の一番下に一四五九の、一四五九の、一というのがありますが、その左側に白紙でかこんでございます。それがそうでございます。国有地でございます。これは、すぐ国から買収するということになりますが、国の方に借用申請を出すことになると思います。

・三五番(黒川佐太郎君) 一四四四、一四二マというのは、どういう関係ですか。

・庶務課長(鵜沢貫覚君) この土地は、まだ現在交渉中で、仮契約ができていない状態で交渉を続けております。

・三五番(黒川佐太郎君) 見通しはどうです。

・庶務課長(鵜沢貫覚君) 適当な代替地があれば、応ずるということでございます。それを今みつけておるわけでございます。

議長（山本昇君）おわかりいたします。議案第四三号  
討論省略原案通り可決いたしますことに中異議  
ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）中異議なしと認めます。よって本  
案は、原案通り可決されました。

議事日程についておわかりいたします。

日程第七、第八議案第四四号、四五号を一括して上程  
いたしましたと思います。これに中異議ございせんか。  
（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）中異議なしと認めます。よって一括  
して議題といたします。

（書記朗読）

議案第四四号 消防団消防自動車用シャシーの購入について

議案第四五号 消防団消防自動車用ポンプ購入について  
 総務課長(山口実君) 議案第四四号並びに四五号について  
 説明申し上げます。

自動車は車体の部分とポンプの部分、二つう部分  
 がございまして二つの部分の業者の契約によつ  
 て成立するわけでございます。一応購入先が違つ  
 関係上、議案を二つに分けました。消防団十三分  
 団は柏崎分団でございます。このポンプ購入につ  
 きましては、去る九月一五日業者の千葉いすゞ千葉  
 日産、千葉トヨタを呼びまして地元分団、地元の後援  
 会、市当局、本部消防署長を集めましてポンプ  
 の機能について説明を聞き、最後に地元分団の要  
 望を入れましてシャシーをいすゞ一九六三年式に決  
 定いたしました。価格はここに示す通りでございます。

次にポンプでござえますが、ポンプは日本造機、日本機械、石原ポンプ三社を呼びまゝ、こちらからホータ設計に基いて入れの結果、最低価格の日本造機と契約を結ぶことになりました。

議長(山本昇君)おはかりいたします。議案第四四号及び第四五号討論省略原案通り決定いたしますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決さしました。

続いて議事日程についておはかりいたします。

日程第九、第十議案第四六号、四七号を一括して上程いたしたいと思ひます。こゝに御異議ありませんか。  
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)が異議なしと認めます。よつて一括して議題といたします。

(書記朗読)

議案第四六号 消防団消防自動車用シャシー購入に

ついて

議案第四七号 消防団消防自動車用ポンプ購入につ

いて

・総務課長(山口実君) 議案第四六号について申し上げます。ポンプの購入については四四号議案の方法を採用して、地元の分団の要望を入れました。第九分団は長須賀分団でございす。価格の点でございす。が、四四号議案より馬力の少ない日産の一五馬力を要望いたしました。次にシャシーも柏崎分団と同様の方法でもって競争入れをいたしまして



最近価格を採用したわけですが、柏崎の消防と価格の相違する点でございしますが、九分団の価格の少ない理由はポンプ車に可搬を積む装置のないこととは、はーごが木のほうにわかつた。そういう関係で九分団の方が安くなっております。

。三二番(鈴木孝君) ちょっと伺いたいのですが、こゝにつきますー。起債とか、補助というのには、一年に二台というのには無理ではないかと思ひます。

。総務課長(山口実君) 起債関係でございしますが、二台分起債で要望したものでございしますが、たまに補助の関係につきまして、五十三万国庫補助がついたわけではございます。国庫補助がつきますと、一、二、二百万のうち、五十万つきますから、二百万という起債の限度

額がたくなるわけでございます。起債より国庫補助の方が優先しますので国庫補助を採用いたしまして、消防車については起債はございません。

・三三番(鈴木孝君)只今の説明でよくわかりました。起債は借りる金、補助はもらう金ですから、結構だと思えます。もう一つ伺いたいのはポンプ車で価格の相違三万あるように書いてありますが、三万では非常に少ないように思われます。可搬ポンプはこちらにあるわけですね。それでなければあまり少ないように思われます。

・統務課長(山口実君)可搬ポンプはこちらでもっております。  
・議長(山本昇君)おかけいたします。議案第四六号及び四七号討論省略原案通り可決いたしますことに決まっております。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（山本昇君）中異議なしと認めます。

よって兩案は原案通り可決されました。

暫時休憩いたします。

午後 一時 五五分 休憩

午後 二時 二〇分 再開

・議長（山本昇君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第一議案第四八号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第四八号 寄付の収納について

・福祉事務所長（長谷川広治君）島根県より九月一

日に満ちて一戈になるその記念として十万円を寄付したいから社会福祉事業資金として納めて貰いたいという申し出がありましてたので、これを受け入れまして民生金庫の資金として利用したい。こういうふうに考えまして提出したものでございます。  
議長(山本昇君)おはかりいたします。議案第四八号  
原案通り可決いたしますことに決まりました。  
せんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)中異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第一二議案第四九号及び五〇号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第四九号 消毒所を廃止するについて

議案第五〇号 隔離病舎を廃止するについて

・厚生課長(伊藤幸太郎君)四九号につきまゝ、や説明申  
し上げます。この消毒所は現在警察署の裏に  
ございます消毒所でございまゝ、ここにも書いて  
ございますように建物どうものが非常に老朽化  
いたしまゝ、近々改築等の処置を講ずる段階  
になつてゐたわけでございます。たまたま組合之  
による隔離病舎が新設さしまゝ、付属施設と  
して消毒施設もございまゝ、この際、市営の  
消毒所を廃止いたしまゝ、その中の機械等は組  
合に移譲いたしまゝ、組合の隔離病舎の付属  
の消毒室にこれを移し、まゝ活用したいという  
わけでございます。なおその後におまゝも一

般の方々の希望に沿つて従来通り消毒は続け  
て参るということでご不便をかけませないというこ  
とを条件に――そして、そういうたいというわけが  
ございます。

次の五十号でございますが、三芳村と共同によりま  
す隔離病舎がでるより――たうで当然不要になり  
ましたところ、旧館山の隔離病舎とひち富崎の  
隔離病舎の二病舎をこの際廃止いたしまし――  
普通財産に編入いたしたいということでございます  
うでよろしくお願いいたします。

。一六番(遠山ヨネ子君)廃止したあと普通財産に編入  
するということでございますが、編入後、それをどう  
いうふうになさるのか、現在考えられていることがあ  
つたらお聞きしていただきたいと思ひます。

・厚生課長（伊藤幸太郎君）廃止後の使用の方法でございますが、具体的には、現在まで考えらるうございませぬ。いづれ普通財産に編入された後において、関係課等の計画が打ち出されるわけでございますので、ただ今うとくろ、具體的の計画はございませぬ。

・一六番（遠山ヨネ子君）ただ私の心配するのには、管理が不十分になると問題が起る市と一々困ることばかりで、今までの例にあるのですけれども、その辺を注意して管理して戴きたいと思ひます。

・議長（山本昇君）おわかりいたします。議案第四九号及び第五〇号討論省略原案通り可決いたします。ことにや異議ございませぬか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（山本昇君）や異議なしと認めます。よつて本議



案は原案通り可決されました。

続いて日程第一三議案第五一号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第五一号 千葉県旧市町村職員組合資産

管理組合の設立について。

・秘書課長代理(小倉澄男君)議案第五一号について市税

明申し上げます。これは法律第一五二号昭和三七

九月八日公布の地方公務員共済制度という新

法律ができたために生じたことですのでありますが、ただ

今まで地方公務員が市町村共済組合と恩給組

合と二本立になっておりましたものがこのたび一

本に強制的加入になりましたことにより、現

在まで我々が入っております恩給組合の資産を管理

するために一部事務組合を設立するに当ります。

自治法の規定によりまして加入する市町村の議会の議決を必要といたしますので皆さんの御承認をお願いいたします次第であります。

議長（山本昇君）おはかりいたします。議案第五号原案通り可決いたします。中異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）中異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第一四議案第五二号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第五二号 国有財産の松下げ申請について  
福祉事務所長（長谷川広治君）中説明申上げます。  
略図が印刷してありますが、斜線を引きましたところ  
ころが今回松下げ申請を受けたいところ

でございます。

県立の館山ユース・ホステルを布

良の海岸の国有地を借りまして建設をいたわけ  
でございしますが、最近国の方針も大口のうちには  
下げをする。こういう考え方にわたって参りまして  
また現在の地価の関係、そういうものから総合的に  
勘案をしまして、この際お下げを受けたい方が適当と  
認め、国有財産のお下げ申請を提出いたしたい。か  
ように考え、本議案を提出いたもうでございします。  
坪数は七九九七坪、四合三の以内ということになつて  
おりますが、このお下げ坪数につきましては、国の方  
で調査の上数量を確定するということとでございま  
すので、以内というふうにいたわけとでございします。  
それから、価格は政府の指定の価格でお下げを受け  
たい。かように考えたりします。なお本件に関し

まゝ、地元の関係でございますが、大方の了解は得  
まゝでございます。

・一二番(嶋貫壮作君)ちよつとお伺いしたいと思ひますが、ユ  
ースホステルは、県の建物ですね。その地所を払下げ  
するのでございますか。

・福祉事務所長(長谷川広治君)建物は県までございすが、敷  
地を提供するというように話し合ひました関係上、今  
回払下げを受けたいというものでございします。

・一二番(嶋貫壮作君)地代でもいただくということにな  
るのですか。

・福祉事務所長(長谷川広治君)敷地はあくまでも市の所有  
ということに考えまゝ、県には現在るところ寄付  
はいたさない考え方でございします。地代はいただ  
けません。

二番(鳩貫社作君)県庁建物に地所を払い下げ、市が  
地代をもらうのなら当然だと思ひますが、そうすると  
そこに県の建物が建つてゐる。その關係をどう処理す  
る考へか、聞いてゐるのです。

福祉事務所長(長谷川広治君)地代をもらひなげで無償  
で使用させたい。こう考へております。

二番(鳩貫社作君)はじめからそういう契約になるのです  
か。

福祉事務所長(長谷川広治君)さうふうに考へております。

二番(鳩貫社作君)さういうことなら考へるうけ、早過ぎる  
のではなひか。わかつたことになりませんか。

三番(黒川佐太郎君)ちひさことも尋ねたいんですが、こう土  
地の問題ですが、所長の説明では、地元の大方の了  
解を得たということですが、誰にどの程度に了解

を得たか。なぜ僕がそういうことを聞くかというところ  
で、冬期通のよいときになんどうを張って多し人は  
十萬からの収益をあげておる、それを取らぬ者皆  
不服をもつてゐる。それから、約ハロー坪になん  
んとする地所がなく、ユースホステルの意義は  
ないのか。なるべく早くして開放してやると  
か。そういう気が持があるかないか。

。福祉事務所長（長谷川広治君）開放の關係につきまゝ  
は、現在付帯工事を進行しておりますが、そういう  
ものが済んでほつきり余裕があれば地元の人たちの  
希望というものは、満ちたいというふうな考えで  
あります。それから、了解の關係ですが、誘致する際  
にいろいろ区長さん、或いは漁業組合長さんと  
話し合ひまして将来お下げをしても差をつけてい

いうふうな了解を得ております。

・三五番(黒川佐太郎君) 今年当り不漁で非常に困つておる。この冬などは、どうにもむらぬい実績でありまして、のでユース・ホステルの土地は、最少限度にしたいのだうたいというのを申し上げておきます。

・議長(山本昇君) おはかりいたします。

議案第五二号討論省略原案通り可決いたします。  
ことにや異議ありませんか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

・議長(山本昇君) や異議ナシと認めます。よつて  
本案は、原案通り決定さします。

日程第一五 議案第五三号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第五三号

館山市国民健康保険条例の一部を改正



する条例の制定について、

・保険課長(神依啓次郎君) 議案五三号について市説明  
申上げます。

第七条中、これは葬祭費の関係でございますが、  
当市に於いては現在まで厚生省の指導要綱  
並びに県の指導方針にかかわらず一件千円を  
支給してあります。但し、保険財政の現況を勘案  
して一件二千円に増額する条例改正でございます。  
す。

第七条の二、これは育児手当の支給でございますが  
厚生省の指導要綱に基づいて、被保険者が出産、  
育児した場合に於いて六ヶ月間一ヶ月について二百円、  
育児手当を支給するよう条例を改正しようという  
ものでございます。

それは支給する期間の終了、或いは経過後の問題でございます。

それは一ヶ月に二百円ということをやつておりました。もしも一ヶ月に足りないときに被保険者が資格を喪失した場合に、それを一ヶ月として計算するといふ計算方法でございます。よろしくお願いいたします。

・三四番(松本藤太郎君)育児手当金ですが、これはずっと前からひけはいけないものやうに私考えておつたのですが、今ここで突然出てきた。これは何かやるべきものとしてやつておつたので、ここに書いてきたのか。或いは厚生省の指示要綱、そういうものでやうになつたのか。どちらかではないかと思ひますが、その点お伺ひいたします。

・保険課長（神作啓次郎君）厚生省として早く基準額まで支給しろということを指導してもらったのであります。私たちも早くからせめて全国的な基準までにもつて行こうということを考えたりまゝたのですが、今回保険財政も幾分か見通しがついて参りまゝたので、同時に県の保険課としてもその基準までもつてゆかぬ市はできるだけすみやかにするようになうという指導方針のもとに今回お願いしたわけでございます。三四番（松本藤太郎君）保険組合の財政の事情がやれなかつたというふうですが、今日では育児手当金月二百円というところで二月育ちて死にた場合に四百円、こういうふうなことが出ておるのです。今、そうでなく、六ヶ月分を

支給するということに、最低になつておると思うの  
ですが、その点、もう一ぺんお答え願いたい。

・保険課長(神作啓次郎君)大體この議案と一ヶ月は六ヶ月育児一円ということを基準に願ひておるわけでございます。

・三四番(松本藤太郎君)私、聞いておるのは、二ヶ月育児すれば二ヶ月分だということに解釈される。だけど、その二ヶ月分、六ヶ月分、千二百円を支給すること、これは最低の保障ではないか。こういうふうには、私は聞いておる。ですから、今もうやるべきものをやらなければ、ということも、保険組合、いろいろの事情でやれなかった。と、いうことも、保険から、この条例を改正して、育児の期間にかかわらず出生し、一日でも息があつたならば、六ヶ月の育児手当を支

給するということが、今の最低になつておるよう  
に思ふんですが、その点を伺つておるのです。

困つた人にやるとか、そういうことではなく組合員な  
らもらう資格がある。また支給しなければなら  
ない義務がある。事情が許すならば、六ヶ月とい  
うものをやるように將來するかどうか伺つておる。

・保険課長(神作啓次郎君) これは、育児手当の支給条  
件として六ヶ月ということをはつきりしたわけでお  
るのだその準則に基いていたたい。かように考え  
ております。

・三四番(松本藤太郎君) 六ヶ月というのは支給する限度で  
すよ。私の言つてゐるうは限度以内でそういう事態が  
起つた場合のことをいつておる。今日では一日でも  
息があれば六ヶ月の育児手当を支給するというこ

とが厚生省でもさういう指導にきつてゐるから、さう  
いう方向に将来財政が許すならば行くべきでは  
ないか。さういうふうに聞いてゐる。

・保険課長(神谷啓次郎君)要するに一ヶ月にたつた  
ても例えは出産を一ヶ月もなく亡くなつたというよ  
うな場合でもこれは月割計算として上げるこ  
とになつてあります。

・三四番(松本藤太郎君)それは皆知つてゐる。一時期  
でも生きておればいい。さうでなく六ヶ月という  
最低の限度なんだから、六ヶ月分をくひるやうに  
財政が許すならば引き上げて行くべきではないか。  
・保険課長(神谷啓次郎君)将来、さういうことをできる  
だけいたしたいと考へてあります。

・三四番(松本藤太郎君)さうしますとこれは一ヶ月生存し

ておれば、二百円、要するに一時間でもいい。二ヶ月以内  
であれば四百円。こういうふうな決め方をしたとい  
うのは、保険組合の財政事情から、こういう条例  
であるのだ。こういうふうに解釈してよろしい  
ですね。

・保険課長(神作啓次郎君) これは、厚生省の指導方針に  
こう一來一ヶ月ということがあるわけなんだからございま  
す。これに準じて条例を改正したというこ  
とでございます。

・市長(田村利男君) 私、厚生省の条例をよく記憶してお  
りませんが、厚生省の指導方針としましては二ヶ月と  
十日で死んだ場合は三ヶ月分として計算して三  
ヶ月分だけを支給せよ。こういうふうに指導  
されているように私、解釈するのですが、将来、六ヶ



月千二百円出してやるということか、やるかどうかが研究して、予趣旨に沿いたいと思います。

・二番(嶋貫壮作君)厚生省の指導要綱を承わりたいのですが。

・議長(山本昇君)暫時休憩いたします。

午後 二時五二分 休憩

午後 三時四五分 再開

・議長(山本昇君)休憩前に引き続き、本会議を開きます。先ほどの質問に対して、当局の答弁を求めます。

・保険課長(神作啓次郎君)第十条、「被保険者が出産した場合において、その出産児を育つたとき、育児手当金として出産の日から引き続き、六ヶ月間、育

見期間一ヶ月について二百円を支給する。但しその期間が一ヶ月に満たないときは、一ヶ月とする。こゝろございますので、この準則に基いて本市も適用して参りたい。かように考えらるわけでございます。

・二番(嶋貫壮作君)六ヶ月間を支給すると、但し、一ヶ月に満たない場合は、一ヶ月間を支給する。あと二ヶ月に満たないかどうか、やっぱり六ヶ月間を支給するのが建前のように思うのですが、君の解釈はどう。

・保険課長(神作啓次郎君)こゝは、六ヶ月間育った時に、ということでありますが、被保険者が或いは欠格を、したときに、それが二ヶ月間、或いは三ヶ月のときには、それは月割り計算として支給することでございます。

・二番(嶋貫壮作君)そこが違ふと思うのです。月割りということとは書いてない。ただ一ヶ月に満たない場合

にということは書いてあるけれども月割りということは書いてない。君は一月二百円づつ割で一月未満の場合に支給すると書いてあるから、よとは月割りでと推察してゐるかも知れませんけれども法律の趣旨はさうでないかと思う。どうぞしう。あからないうえにこの問題はあとにましよう。よく研究してから答えてくたさえ。

・議長(山本昇君)休憩いたします。

午後	三時五二分	休憩
午後	四時〇五分	再開

・議長(山本昇君)休憩前に引き続き会議を開きます。  
おわかりいたします。

議案第五三号討論省略原案通り可決いたします  
ことに仰異議ございせんか。

(「異議ない」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)仰異議ないと認めます。よつて本  
案は原案通り可決されました。

日程第一、議案第五四号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第五四号

館山市市税条例の一部を改正する

条例の制定について

・税務第一課長(高木哲三君)議案第五四号について、説明  
申し上げます。この改正は内容にかわりはありません  
せんが、字句を簡単にわかりやすく改正し  
たものであります。

三五条は所得の計算でございます。「所得税法第二

又条第一項もーくは、第二項の確定申告書、もしくは同法二七条第一項若ーくは「こういうふうになつておりまーたのを「所得税にかかわる申告書を提出ー」というふうに簡単にわたわけでございます。

三又条の三、こゝは所得税にかかわる更正、または決定事項の申告義務でございます。こゝもやはり長くなつておりまーたのを「所得税にかかわる修正申告書を提出ーた場合」というふうに簡単に条文を短かくわかりやすくーたわけでございます。

四三条もやはり同じでございます。

四八条、今まで利子税額ということになつておりまーたが、国税通告法がございまゝこれには、利子税という言葉を使わずに延滞税というふうになつたので、条例の方でも利子税を延滞税にかえまーた。以上

でございます。

・三四番(松本藤太郎君)手続き上りことのように承知しておるんですが、市民税が以前と違つて総所得を基礎にいろいろ控除さへて課税さへるというように変わつてしまつてゐるわけですね。そういう関係で申告漏れ、或いは、そういうことでなかつたから、控除は、ないのだというふうなやついもやがゐると思うんですが、今年三十七年度にあんなふうでやつたように、それよりもきつくなつたという面が、今度の条例で出まうてゐるのですか。同じものなんですか。

・税務第一課長(高木哲三君)それは別に今きでとかわりません。

・二七番(鈴木市藏君)今う説明ではわからない。だから、何条は、こういうものであつて、こういうふうにかゝつたという

ことをもう一回説明してくねえせんか。

・税務第一課長(高木哲三君)三五条の一項でございすが、これは所得の計算でございす。所得割る課

税の基礎となるべき所得金額の把握は所得税の課税のための資料に基いて行うが原則となつております。その基礎のないうちは、市自

体で調査して結果に基いて算出するというのがこの三五条でございす。結局、所得税法第二六条

第一項、これは確定申告、第二項源泉徴収、同法二七条の一項、修正確定申告、これをなすところ、所得税にかかわる申告書ということであつて、もつてございす。

・議長(山本昇君)おわかりいたします。議案第五四号討論省略原案通り可決いたしますことに決



議でございますか。

(「異議ない」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君) 此異議ないと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

続いて日程第一の議案第五五号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第五五号

館山市消毒手数料条例の制定につら

う。厚生課長(伊藤幸太郎君) 五五号につきましても説明申

し上げます。この条例を新たに設けることになりま

す。理由といたしましては、今まで消毒所の使用料

条例があつたわけでございますが、先ほどの議件にも

お願いしてまゐりました通り、消毒所の廃止に伴いまして、

当然、従来より使用料条例を廃止する段階になつた

わけでございます。一からいながら、従来より条例の中

には、衣服、寝具等の蒸気消毒、そのほか、家屋、船舶の消毒の条文がうたわれてあるわけでございます。すので、新たに隔離病舎に新設されます消毒所におきましては、家屋、船舶の消毒はいたしませんので家屋、船舶につきましては、消毒のみを新たに条例化しようというわけでございます。

条文につきましては、ここに書いてある通りでございます。います。手数料の額でございますが、これは従前の手数料条例と同額でございます。そういうわけでございまして、新たに条例を設けますとともに従来の消毒所条例を廃止しようというものでございましてよろしく願います。二二番(田中祿郎君) ちょっと伺いますが、旧消毒所条例を廃止するということになっておりますが、船舶と家屋

だけの消毒の条例でございます。以前ありまして毛布一枚幾らとかいう条例は廃止するわけでございますが、ただでもって全部やることにするのですか。

・厚生課長(伊藤幸太郎君) 只今、市實地でございますが先ほど申し上げましたように、今度組合の隔離病舎付属の消毒室で万事やるわけでございます。

従いまして新たに組合の条例として手数料条例を制定するわけになります。従いまして今までの

の鑑山市の消毒所でありました手数料と同額のもうぐやうで参りたい。このように考えております。

・議長(山本昇君) おけりいたします。議案第五五号の討論者略原案通り可決いたしますことには異議ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

議長（山本昇君）市異議なしと認めます。よって  
本案は原案通り可決されました。

この際、議事日程についておはかりいたします。  
日程第一八・一九議案第五六号、五七号を一括して  
上程いたしたいと思ひます。これに市異議ござい  
ませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

議長（山本昇君）市異議なしと認めます。よって一括  
して議題といたします。

（書記朗読）

議案第五六号 昭和三七年度館山市歳入歳出追加更正  
予算

議案第五七号 昭和三七年度館山市特別会計国民健

康保險歳入歳出追加予算。

・総務課長（山口実君）議案第五六号について、説明申し上げます。

歳出の方から説明いたします。

市役所費において今回五百二十九万追加をお願いいたします。需用費におきまして消耗品費といえまして、二十八万。宛名カード等購入費とひつておりますが、これは、来年度固定資産税の評価基準年度におきまして固定資産税の課税標準を計算する負担が相当かかります。賦課の計算が従前の通りの長い期間取れない現状にあるわけでございます。来年度宛名カード、こういった機械化によりまして、事務を能率化して、こうとするものでございまして、宛名カードは市内の各世帯主の全員が

宛名を印刷したカードでございます。これを利用いたしまして、徴税令書の印刷を更に迅速にしようというものでございます。次に通信運搬費の

五千円は庁内の室の中に電話のない室があったのでございます。大会議室、二三会議室、それと税一、こういった室に三本電話を架設しようというものでございます。

次に備品費について、四百八十四万の追加、これは機械化に要する会計機でございます。次に電動封かん

機、これは令書を一枚々々たたむ装置でございます。次の宛名印刷機でございますが、これは宛名カードを使用いたしまして、各令書に宛名を印刷する機械でございます。それから、その下が宛名カードを入ける箱でございます。二箱分の費用でございます。

次に乗用車購入費、百十五万五千円でございますが、  
現在市で使っております三台のうち一台のマーキ  
ユリーが既に使用不能になります。二台目の自  
動車も既に車検の時期にきてゐるつでございます。  
これらの状況を考えますと必要となす一台では乗用車  
が不足する。そういう状況によりまして、今度乗用車  
を購入したいというものでございます。

次に投資及び出資金でございますが、これはただ今  
申し上げました内線に要する債券の割当でござ  
います。

次に営繕費におきまして、十五万をお願いいたして、  
これは市民課で必要な住民登録に必要なカード  
を保管するためにカウンターの下にロッカーを設け  
る費用でございます。

次に消防費において十五万追加をお願いいたします。  
た、十五万の内訳は消防協会館山支部交付金  
でございまして、これは前団長の消防団葬のたてか  
え金五万円、県下支部長主任会議が当市が当  
番の関係上、ここに負担金をお願いいたします。  
大会を円滑に行う計画でございします。

建設課長(新井重助君)四款土木費について説明申し  
上げます。今回四百八十九万円の追加でございま  
すが、このうち道路橋梁費は六月の長雨によりま  
す路面の破損その他がございまして碎石の購入が  
二、三立方メートル以上に及んでおりますのでその費  
用といたしまして八十万追加をお願い致します。  
新設改築費九十万円、施設費五十万、補償金  
及び補填金、四十万、これは過去の議会におきまして



那古の釜屋の角から那古の港の下ります那古港  
線の改良事業でございしますがこれも二年前から  
土地の取得、その他につまきく地元にも協力を  
お願いいたしまして、今回地元も非常に  
熱意をもちまして土地の取得が容易になりまし  
たお、それに伴います家屋の移転が四戸ございま  
す。これも快諾をいただきまして、今回は用地の買  
収と家屋の移転、その他地上物件の移転といたし  
て、今古の改良工事をやりたい。かように考えま  
す。一、九十万の追加をお願いする次第でござい  
ます。河川港費におきまして三百十九万の負担金で  
ございしますが、これは富崎港におきまして、当初一  
千万を見込んでございまして、たが六百四十万の工  
費の増額になりましたので、そう三割といたし

まゝ、二百四十万円が市の負担でございます。

船形港でございますが、当初二千万円の予算定でございまして、今回二千四百万円の決定になりまゝ、四百万の増額になりました。二割五分百万円が市の負担となります。なお富崎の県事業が三十万円増額になりまゝ、この半分が地元負担金、合計三百十九万も願いました次第でございます。四項水道費におきまゝ、施設が古くなりまゝ、修善が相当かかりまゝで、当初の三万円を使い果してしまつた。今後なお修繕の見込みがございますので、負担金の方から五万円更正いたしたい。かように考えまゝも願ひました次第でございます。失業対策事業費でございます。十二万六千円追加をお願いすることでございますが、道路橋梁改良工

事費の中で施設費で七万円、補償金及び補めん金  
で二万円、当初見込みより貴用がございすか、そう  
後測量いたしよた結果、土地購入費にないで七万  
円地上物件その他補償料で二万円不足を来たし  
たので今回追加お願いいたすわけがございす。  
需用費におきましく旅費三万六千円、これは西岬の  
浜田線改良工事に通勤いたします失業者の通  
勤旅費でございす。今まではトラックで輸送して  
おりました、道路交通法の取締りが、嚴重でござ  
いまして違反行為をいたしなくありますんので延  
人員六千人一日往復六十円の費用がかりますの  
でバス代として三万六千円追加いたしよた、以上  
でございます。

庶務課長(鶴沢貫寛君)第五款教育費について説明

申し上げます。

今回百七十四万九千九百円を追加お願いいたしまして、  
教育委員会費におきまして需用費三二節負担金  
補助及び交付金で二十万円を更正いたしまして、  
先般当市において削減いたしまして、大東ブロッ  
放送教育の大会負担金に当<sup>初</sup>予算三十万予  
定いたつてございしますが、こゝが十万で済みまし  
ために二十万円を更正して追加財源といたわけが  
ございます。

学校教育指導費の吏員給十九万五千六百円指導  
主事給料でございしますが、こゝは当初予算におきま  
しては、初任給教員の額を計上いたつてございま  
すが、県との交渉がつきませんので指導主事の  
割当がどうしても取れませんので、規現在の佐野

指導主事を本市の職員として採用いたしてまいら  
ための不足額でございます。

小学校費におきまして、備品費で四十九万六千円、  
教材費が十九万八千円、これは国庫補助の増額に  
よりますための追加でございます。特殊学級器具

費十八万円、これも今回国庫補助が決定いたしてま  
いり、追加でございます。国庫補助は指定校北

条小学校と船形小学校に各七万円づつ決定いたし  
まして同額を市費で計上いたしてまいりました。当初

予算で十萬円計上してございまして、今回事の  
差額十八万円をここに計上いたわけでございます。

館山小学校の備品費一万八千円、これは歳入の方  
に計上してございしますが、使用に耐えられなくなりま

したピアノを払下げしまして、今回オルガンを買わ

うというためのものでございます。理科の器具費  
十万円、これも国庫補助の額が増額になりました  
ために、ここに追加計上したものでございます。

三九節扶助費で十万六千五百円、準要保護児童  
教科書購入費、修学旅行扶助費、学用品扶助費  
等、これも昨年に比べまして今年増額されたための  
追加額でございます。

中学校費におきまして、備品費で二十七万八千九百円、  
理科器具費十五万円、これも小学校費と同じよう  
に国庫補助の増額による追加分でございます。  
教材費十九万、これも同じでございます。放送器具  
費六万千五百円を更正いたしまして、これはその  
下の工事請負費に更正いたしました。二中の放  
送室を改造したための費用でございます。

扶助費、十四万二千二百円、これも小學校と同じように今回國庫補助金が増額されたため、追加分でございます。

高等學校費におきまして、六十四万九千六百円の追加でございます。吏員給で四十万五千円、給料で八千二百円、これは、県におきまして、昨年、度赤字解消によりまして、県下教職員に対してまして、三二年以降採用の教員に対してましては、一ケ年、の短縮、それ以外の職員に対してましては、三ヶ月短縮の措置を取ったわけでございますが、本市におきましては、財源の関係で、一応、さうまゝ見送りになつておつたのでございますが、市の方にお願ひしまして、今回、県と同じように昨年、の四月一日にさか上りまして、三二年以降の職員八人、それ以外、の職員に対してましては、三

が月短縮の措置を取ったわけでございます。これに  
連いたしましては、一番最後に十三款諸出金の中の六  
項過年度支出金で二十万一千円計上してございます。  
これは三六年度の方でございます。

諸手当で四万二百円を計上いたしました。先般退取  
いたしまして事務長の退取手当でございます。

取買厚生費三万五千三百円、これは昇給に伴う  
恩給組合負担金、共済組合負担金でございます。

需用費で十六万一千円、食料費十六万一千円、こ  
れは夜間生徒の給食費でございます。現在ミルウ

の給食を行なっておりますが、今回国の方の補助規  
定によりましてパンの給食も可能になりましたの  
で九月パンの給食を行いたいと思っておりますため  
費用でございます。



営繕費で三一節補償金及び補てん金で三十二万  
九千円計上いたしましてだが、これは土地購入に伴  
います離任補償料でございまして、これを土地購入  
費の方から社会教育費で青少年健全育成費と  
いたしまして消耗品で一十五千円、印刷製本費で五  
千円不足しまして、これをどこぞへ更正いたし  
ました。青年学級で需用費、備品費で二万円  
教材用器具費を計上いたしましてだが、これは今回  
国庫補助金が増額されたための追加でございす。  
体育費におきまして、九節賃金で二万五千円臨時  
用人料を追加いたしましてだが、これは先般プー  
ルの看守人がけがをいたしまして入院いたしましてた  
めに、そのかわりとして臨時用人を雇ったわけが  
ございす。これを青年学級費から更正し

で充當いたしました。以上で教育費の説明を終ります。

。福祉事務所長（長谷川広治君）社会及び労働施設費について申し上げます。

三項の児童福祉費におきまして、二百二十九万二千円計上いたしました。これは二八節の施設費といたしましてさつき審議いたされましたユースホステル用の敷地関係の払下げ資金として附近の評価額を参考にいたしまして、四十五万計上いたしました。

児童措置費といたしまして、百八十四万二千円計上いたしました。これは過ぎた四月七月にそれぞれ単価の改定がございまして、現在措置してあります児童の数から考えまして、年間の不足額と思わ

れる数字でございます。総額で八百三十六万五千二百円、年間約七、五〇〇人のお子さまをおあずけする。こういう予定でございます。

保育所費として百二十六万四千二百円計上いたし、また旅費として現在まで支出額から考え、この年末まで約二万ほど不足額を出す予定でございますのでその額を計上いたしました。

需用費として一節の消耗品費五万二千五百円、二六節の原材料料費十九万七千七百円は、先ほど申し説明申し上げました四月、~~四~~七月の基準改定によりますもの、国で定めます、それだけの期限に照らし合わせて、不足額を計上いたしました。二四節、工事請負費として百万円計上いたしました。これは、船形地区にあります東京都の

付属の幼稚園が今年一ぱいで廃園・ということになる。すゝめどここに現在預かつております約五十名の園児を本年四月に開設いたしました船形保育園に収容いたしたい。こう考えまして三万六千円程度の単価で二八坪を予定いたしまして百万円計上いたしました。

福祉事務所費として五万四千円計上いたしました。賃金として五万円、これは取員が一人やめまして、正式の取員が配置になりました。臨時用人で現在やつておりますのでその賃金でございます。それから、原付自転車の燃料として四万円。九項の社会事業費として十萬計上いたしました。これも先ほど審議をいたさしました民生委員の島根治氏よりの民生金

庫の事業委託費として計上したわけでございます。  
二項災害救助費として五万八千七百円、これは三  
宅島の学児疎南の受入れ関係、それから、帰島  
に要した費用でございます。それから、それから消耗  
品、食糧費、通信運搬費、工事請負費、付託の部  
分によりまして、総額五万八千七百円を使用いた  
したもので、今回計上したわけでございます。

一二項国民年金事務取扱費といまして、三二  
節の負担金、補助、及び交付金、それに一万二千七百  
円計上いたしました。これは、郡市で国民年金事務  
研究会というものが作られています、それに、熊山市も  
加入をいたしてあるわけでございますが、三十七年度  
の研究会の負担金が多くなりまして、通知がござい  
ましたので、一万二千七百円を計上いたしましたわけ

でございます。その財源といたしまゝに旅費を更正いたわけでございます。

・厚生課長(伊藤幸太郎君)「五項厚生援護費でございますが五十三万八千余円の追加でございます。そのおもなものといたしまして、工事請負費におきまして、五十二万円の追加で附記にございますように忠霊塔の建設工事費の追加でございます。既存の二百万の予算がございすけれどもそれに加えましていろいろやつた関係で最後に五十二万円の不足が生ずる予定でございますのでお願いいたします。この五十二万の中には、基礎工事分も入っております。なお五十二万円の負担の問題でございますが、これは収入の関係とも関連するわけでございます。すけれども、一応の説明を申し上げる

おきたいと思ひます。

忠霊塔の建設工事につきましても、遺族会の各役員の方々と市側と大いにかかわらず、すべて相談をいたしまして、今日まで進めようと思つたわけでございます。たまたまその相談の節に二百万円の規定の予算を超過するような場合には、市側と遺族会側ともちよりまして、捻出しようじゃないかというような話も合ひも出たわけでございます。であります。であります。で今回の五十二万の追加の分につきましても、遺族会の役員の方々とよく相談申し上げまして、そのうち二十一万円を遺族会の方から市側に寄附をいただく。こゝうに役員会の席上におきまして、皆さま方の許可を得て参りまして、収入の寄附金の中に二十一万円を予

定めてございますので、その点、お含みの上、お願いいたします。

次に第七款の保健衛生費でございます。そのうちの隔離病舎費、これに四十九万九千二百円の追加をお願いするわけでございます。これは組合との隔離病舎の館山市分、分担金でございます。分担金の額が今回、工事費の増加によりまして、六十二万四千円の追加をお願いしなければならぬというふうになりまして、そのうち、八割、即ち、四十九万九千二百円を本市の負担金として追加をお願いしたいというわけでございます。

所参考までにどうように、追加を並べたかということにつきましての概略を申し上げてみたいと思います。



まず、隔離病舎の工事のうち、焼却炉の工事でございます。  
います。これが予算におきまして、十六万五千円  
を当初見込んだわけでございますけれども、二万四千  
円の不足を生じたわけでございます。それから排水  
工事と内の扉、これらの工事におきまして、三十三万円  
を当初見込んだわけでございますけれども、二十二万  
円の不足ということでございますが、非常な多額の  
不足でございますけれどもこれは、当初見込みま  
した排水工事の關係でございます。最初、単に暗  
渠排水の程度考えたのでございすけれども、實際  
に工事を始めて見まして、ところが、非常に水量  
が多くございまして、なかなか安直な暗渠排水程  
度では、水量が足りない。こういう結果が出て  
参りました。それで、かくの水をただ捨てるのも

つたいないといふことで、これを貯水槽を張りまして、  
雑用水に使つたらどうかといふような計画変更を  
いたしまして、さうように取り運んだわけでございます。  
従いまゝ、今申し上げましたように二十二万円の不足  
を生じますので、今回お願いいたしたいといふわけ  
でございます。

それからガスの引込み工事、水道の引込み工事が一万  
五千円程度不足を生じました。さらに大災報知機  
これが二十五万円の新規の工事でございます。当初  
見込んでおりませんで、たけれども消防関係の法律  
等の関係から或いは消防関係の指導の面から特  
に公共建物であるので大災報知機を是非つけろ  
といふことでございますので、新規に二十五万円の経費  
をもちまして、隔離病舎に大災報知機をつけることに

いたらないわけでございます。かようにいろいろな不足を生じましたので今回、六十二万円余の追加をお願いしなければならぬということになりました。本市の負担分四十万九千余追加としてお願いいたします。

以下、火葬場費、環境衛生費でございますが、特に環境衛生費におきまして八十万円の追加でございます。これは例年行なっておりす夏場の殺虫剤の購入費でございます。当初、二百万予定してございましたけれども希望者が多くございまして八十万程度不足を生じたわけでここに八十万お願い致したわけでございます。

次の清掃費のうち、賃金におきまして六十万円の更正をいたしました。これは作業員のうち、運

転手の方が当初作業員の賃金と一ヶ月計上  
 したのですが、本年当初におきまして  
 新規採用で正式の運転手として採用になりま  
 したので、その方が余ったわけでございます。  
 それを更正いたしたわけでございます。

次に主なものといたしまして、備品費の更正でござ  
 います。これは、当初四百万円予算をお願い  
 したのですが、その同額の起債を申請し  
 たのでございしますが、たまたま半額の二百万円のみ  
 しか参りませんでした。当初予定いたし  
 ました四台の購入が不可能でございます。そういう  
 関係で今回は三台に購入を減らしまして、やはり  
 ひとつのこと、その分を更正したわけでございます。  
 あとの原材料、負担金補助、及び交付金、その他は

附記にある通りでございますので、仰了承願いたします。

・農産統計課長（吉田耕一君）産業経済費につきまゝ、  
中説明いたします。

産業経済費の今回の追加額は、四百七十八万余  
でございます。

農林関係につきまゝ、三百二十八万九百円をお  
願ひしようというものでございます。

園芸振興費でございますが、百五十万円をお願ひいた  
します。

二二節の委託料の二十五万でございますが、淨菜の  
需要が大幅にふえたというふうな関係から、  
一か、農業労力が不足するといふふうなこ  
とから、農業面積を拡大することができないので

除草剤の展示試験、並びに施肥の展示試験とい  
うようなものを設けまして本年度皆さんに実施段  
階に移す前に一応展示実験としまして栽培地域  
に委託をいたしたい。かように考えまして三万七千円  
を計上いたしたわけでございます。

次に房洲いちごの名声は東京市場においても一  
番だというふうなことになるわけでございます。  
だんだん増収の一途をたどつてあるわけでございます。  
なお一歩進みますと早出しのいちごの栽培を企画  
してあるようなわけでございます。これにつきまして  
石垣いちごの試作をやつてみようということになつ  
たわけでございます。害虫の防除の経費を設け置  
いたしましてこれを実施したい。かように考え  
ましていちご栽培組合に委託したい。このように

考えるわけがございます。

次に房州さらまめで東京市場に親しまれまゐったわけ  
でございしますが、年々原種を大阪方面から移入し  
おったわけがございしますが、原種の値上りというふうな  
関係からいたしまし、労力の不足等からいつま、と  
うい栽培利潤が合わないというふうな結果をこわす  
わけがございします。こういふ事態を打破するため  
に本市地域内におきましても、原種の採取がでる  
だろうという見通しをたてたわけがございます。  
分所等の指導等に基きまして、本年度原種  
の試験費を設けたい。このように考えまして、  
地域を予定してあります。委託いたしまして、こ  
の原種の試験をやつてみたい。このように考えま  
して、ここに十五万円お願いしようというものでござい  
ます。

合めせまう。二十五万円を委託いたしう。お願い  
いたすわけでございます。

三二節の負担金補助、及び交付金でございます。

八十万円、これは果樹園の配管モデル施設の設置事  
業費の補助金でございます。沼地域におきまして

大体、六町余の田地のびわ園がございます。そうび

わ園の老朽化を防止するためいろいろの防除、或い  
はまた灌水というふうな面がきわめて完全に行わ

れていないというふうな観点からいたしう。施設  
をいたしう。長く保持できるびわ園にいたたい。

こう考えまして、果の方との話―合いもございま  
うで、ここに八十万円を支出いたたい。かように

考えるわけでございます。総工費は大体百三十

万程度でございます。そのうち、八十万円をこの



予算に計上したのですが、八十万のうち四十万は県の補助、残りの四十万は市費補助といないまゝ残りを受益者負担といないまゝモデル的に実施して見たい。かように考えるわけでございます。

畜産奨励費でございます。百三十四万六千円でございます。三三節の補助金でございますが、これは飼料作物の作付転換の促進事業費といないまゝ果になきまゝこれに対する機械器具の購入補助があるわけでございます。この購入申込みにつきまゝは、各地域ごとに申込みがございまして、稲刈機が一ニ台、カッターが一三台、乾燥機二台、合計いたしまして、二台という申込みが属しまして、県に申請いたしまして、この費用

といふ。まゝ六十万円補助があるわけでございます。この六十万円補助と合わせまゝ残り四十万六千円を受益組合の負担といひまゝ。寄付金に受入れまゝ。金額百三十四万六千円を組合に補助金とまゝ。こうな機械の購入をまゝ。交付の促進事業を実施して参りたい。このように考える次第でございます。

次の農林振興費でございますが、十万円は負担金補助でございます。館山市の農業近代化資金の審査委員会がございまゝ。現在近代化資金を利用する額が二千三百万円程度でございます。なお、こうしたものを今後出まくるというふうな関係からいひまゝ。十分な検討と事故のない并済の審査をまゝ。参る関係から審査委員会に必要な経費

といた一きり、二万円お願いしようというものがございます。

次の農業構造改善に伴いますところの第一、主眼でございます一市町村一農協という国、県の指導方針に基きまして本市におきましても館山市の七つの農協を今後早急に合併の段階まで推進して参りたい。このように考えまゝ本市の合併の推進委員会に對し、それに必要な経費といひまゝ補助金八万円をお願いしようというものでございます。

次に三項の土地改良費でございますが、さううちの林野整備費におきまゝ、三十二万九千九百円でございます。

このおもむきにつきまゝ、これは工事請負費の三十一万九千円余でございますが、こ

小は、神余越地原線の新緑の林道の石積みの補強工事と  
いたしまして、完全な道路にいたらないというもの  
でございます。なお、長さが一メートルの両側で  
ございます。高さが平均にいたしまして五・四メート  
ル程度でございます。

次に六項の農業構造改善事業対策費でござ  
います。四十万円、一目的計画樹立推進費十万  
円、でございすが、補助金といたしまして本市  
の農業構造改善事業協議会にお願いたしま  
して、いろいろ末端の盛り上げる力にふたつた今後の構造  
改善事業計画を立てて参りたいと考えまして、未  
端の一つの代表機関でございす協議会にこの援助  
の援助をいたしたい。かように考えらるわけでございます  
次に需用費で三十万円、これは農業構造改善事業

業を主としてしまし、末端からの盛り上げる計画  
の収拾、或いは促進というような面に必要な消  
耗品、燃料その他特に必要な実施計画等にす  
ますところの印刷製本費等、必要額をここに計上  
いたしました。大体以上が今回お願いしようとし  
る追加額でございます。先ほど申し上げました  
三百二十八万九千四百のうち二百六十六万六千円が、国、県  
及び寄付金によります。財源といたしまし、残り  
の百二十四万四千九百円、これを一般財源からお願い  
いたしまし、本事業を完成いたしたい。かよう  
に考える次第でございます。

次に十款の統計調査費でございますが、これは市  
民所得の推定調査を行なつてゐるわけでございます  
すが、なかなか人員の不足等にまゝ、今回

臨時用入をお願いいたしまして、市民所得の推定を早急にまとめたい。このように考えまして、臨時用入の賃金をお願いいたした次第でございます。

・商工水産課長(羽山房雄君)七項の商工費につきまして、中説明いたします。

今回、銀座振興会のほか、七つの商店街におきまして、一三五灯の水銀灯の街路灯を設置中でございます。

これに対して、一灯当り一万円、合計百三十五万円の補助金を交付することについて、いたしまして、商工費におきまして、百三十五万円計上いたしております。

次に八項の水産費でございますが、今回追加をお願いいたしまして、十五万円でございます。

これは相模漁港の船泊り場、排水路が相当以前から破損してありまして、今度その工事をする事になりました。この工事はコンクリート工事をもつて幅一マセンチ、長さ四メートルの排水路でございます。

なお、これに伴う地元負担金を五万円歳入に計上してございます。

・総務課長（山口実君）財産費について申し上げます。工事請負費でございます。北条海岸に市営の警察寮取員の住宅が二棟ございます。その二棟の垣根が非常にこわれまして、あとかたもない状態でございますので、この補修のため四万円お願いしようというものでございます。

三三節 保険料でございますが、これは今回消防

車は、じめ 新規購入予定の各々の自動車、の保険料でございます。

。選挙書記長（大嶋重義君）選挙費について申し上げます。選挙管理委員会費で四万九千円お願いいたします。これは、負担金でございしますが、明細は、附記の通りでございます。

選挙啓発費でございしますが、二万八千円は、選挙啓発に必要な事務費の追加分でございします。この明細につきましては、附記により、承願いたします。三項の参議院議員選挙費でございしますが、五万九千円、このうち、旅費が三万円、委員の視察旅費と、いうこととでございします。

需用費でございしますが、このおもむきは、報償費九千円、参議院議員選挙の投票成績のよい区を



表彰するということから指示によりまして、賞品代に充てようというものでございす。備品費、三万四

千円、投票記載台を金属のものにするためにここに計上するわけでございます。この財源でございますが、二、節の借料、原材料費で三万四千円、更正財源を得たものでございす。

五項の知事選挙費でございますが、これに十八万八千六百円の追加でございますが、このうちのもやは職員手当十四万八千六百円、当初の予算では知事選挙は平日執行ということでございます。たので、さうふうに措置したものでございす。先だつて県の方から知事選挙は、日曜日に執行という線であるから、さうふうに予算措置をするようにという内示がございまして、日曜に投票事務に

従事する取員の超過勤務手当をここに追加として計上してあげてございす。

消耗品の四万円でございます。これは、公明選挙ホスターを設置することになりましたので、この掲示板の資材費が二十カ所分で四万円必要でございす。

食糧費は投票、南票事務従事者の食糧費でございす。

第二項、第三項の追加分につきましては、全部、国庫委託金。

五項の知事選挙費につきましては、県の委託金で、それぞれ全部まかなうことになりましたので、片了承願いたしたいと思います。

・税務第一課長（高木哲三君）一三款諸支出金のうち

徴税費について申し上げます。六十四万一千円、追加で  
ございます。報酬で一万六千円、三十九年度の土地評  
価がえのために必要な土地の評価補助員の報酬でこ  
ろいまして二十人分を見込んでございます。

賃金で三十八万五千円、土地の調査などするために各  
行政区ごとに協力員とでも申しましようか。そういう  
方をお願いいたしまして、一日七百円、五五日分を  
見込みました。

備品費の二十四万円。これは、原付自転車、今まで  
五〇〇と五五〇がございますが、今度は一二五〇を  
二台購入する予定でございます。これは調査に行  
きますのに二人乗りで行く関係でかなり強い方が安心し  
いけるということで二台分をお願いいたわけでございます。  
。総務課長（山口実君）過年度支出金について申し上げます。

統計二十万一千円計上いたしました。付記の通り、  
館山高校の取算に支給する額でございます。

歳出合計五億一千五百六十三万五千四百二十四円。

次に歳入に入ります。

一、敷市税において、千五百五十三万七千五百円計上いたしました。この内訳といたしまして、市民税千十八万、たばこ消費税で五百三十五万二千五百円をお願いいたしました。これは、いずれも増収見込み予定のもうをここに計上したわけでございます。

次に五款分担金及び負担金について申し上げます。二十一万九千六百円の減額でございますが、これは当初予算にありましたが、予定額より歳出の状況が、この程度減額したうでこれを更正しようというものでございます。

次にオ六款使用料及び手数料でございます。

保育料として五万円計上いたしましたが、これは保育料料率改正によるものでございます。

七款国庫支出金において、総額三百四十一万四千七百円、計上いたしました。これは、各項目付記にある通りいずれも増額になつたものでございまして、歳出で説明うあつたものでございます。

八款県支出金について百四十五万二千二百円計上いたしました。料率改正等による増額分でございます。次の県補助金で九十九万五千六百円お願いたしました。これは、各節にございます。県からの補助金でございます。

次に九款、寄付金で二百五十九万一千円計上いたしました。これは、いずれも各節にある説明の通り

リでございます。

一ニ款雜収入でございますが、これは、館山小学校のピアノの売払い代金でございます。それから生活保護費の前年度収入等でございます。次に十三款市債にもうまい二百萬減額いたしました。これは、歳出で説明うございました清掃車への起債額の二百萬の減額でございます。

以上歳入追加額二千七百十二萬七千二百円、歳入合計五億一千五百六十三萬五千四百二十円、歳入歳出差引き現金のし。

・保険課長(神保啓次郎君)六十七号議案についてや説明申上げます。

歳出第一款の市役所費、需用費で一万五千円をお願いいたしました。これは自転車の備品で不足を生

トまゐたのでお願いするわけでございます。

二款、保険給付費、三項の葬祭諸費十月一日から葬祭費を増額したいということ、負担金補助金と一、二十一万計上したい。育児諸費で四万二千円、これはやはり先ほどお願いしたものでございませう。

歳出合計八千四百五十一万七千三百円になります。次に歳入でございます。歳出で申し上げました財源は、九款繰越金、前年度繰越金をもつてこれを充当したいと思ひます。十六万七千円計上した次第でございます。よろしくお願いいたします。

議長(山本昇君)以上で当局の説明を終りました。今日の会議時間は議事の都合によりまして、あらかじめこれを延長いたします。

暫時休憩いたします。

午後五時二十分 休憩  
午後五時五十分 再開

議長（山本昇君）休憩前に引き続き、会議を開きます。  
議案第五十六号及び五十七号に対しまする質疑を行います。

一六番（遠山ヨネ子君）環境衛生費の薬剤ですが、これは毎年同じように追加更正がありますけれども、これはどの方面に一番多く薬剤が使われているか、それから環境衛生促進協議会負担金というのがありますけれどもこれはどういうものか、お尋ねいたします。



厚生課長(伊藤幸太郎君) この薬剤費でございますが、これは、例年夏になりましてハエ、蚊の撲滅運動の殺虫剤でございます。本年度は個人的なもうけになるべく避けまして、部落町内会、或いは婦人会等の団体、そういう大きなグループへ利用を指導して参つておるわけでございますが、この薬剤費は当初予算でもや説明申し上げましたように、市におきまして四か一を補助いたしまして、四かの一を実費徴収金でいたしまして、薬剤の購入代金に充てているわけでございます。町内会の組織の問題とかいろいろなことでも多少そういった面はあろうかと思ひますが、けれども大体市内一般に全部出たおるはずでございます。それから協議会や負担金でございますが、これは新たに六月に県下の清掃事業の延

進のための集りを県下全部の市町村で結成いた  
し、また、発足したわけですが、それへの負担  
金として、三万円追加をお願いしたわけですが、ま  
す。

・一六番(遠山ヨネ子君) 前は、市にダスターやなんかがありま  
した。非常に蚊やほえが少なくなつたように思うので  
すけれども、最近またどこか地区に行っても蚊が多い  
ので、薬剤販布についてもう市の方で指導的  
にやつたならばもっと効果が上るのではないかと思  
うのですが、いつも言う市長さんはいいお話だ  
といつて下さるんですが、実際におつたほどにや  
つていただけない。

それから、環境衛生促進協議会負担金というもの  
についてもう少し具体的に――

・厚生課長(伊藤幸太郎君)先ほど申し上げたように六月発行  
したばかりでございしますが、目的は県下市町村全部  
参加しての清掃事業の促進をはかる。即ち今  
向題になつております、一、灰処理場の建設、向題或い  
はゴミ、塵芥の処理の向題、焼却場の向題、これら  
のいろいろの向題を総合的に研究をして、さらに場合  
によりまゝは協議会の名前をしちまゝ、厚生  
省、そういった方面に働きかけをして、というふうな  
目的で結成されたわけでございます。

実際の活動につきまゝ二回ほど現在まで  
会合をもつておりまして、今申し上げ  
ましたように六月早々でございします、効  
果的な事業というものはございせんけれども  
順次、少々の目的に向つていろいろ仕事を

して行く。そういう意味で、完成されたわけでも  
ありません。

さっきのダスターの由題でございますが、これは保  
健所の指導等もございまして三年ほど前まで  
は、D・D・T粉剤を使いまゝやつて参りま  
した。しかしながら、最近に参りますと、専門  
的にはよくわかりませんが、D・D・T粉剤の效果  
さういうものが、非常に薄いまゝあります。

低抗性がでてきたということと、それだけ費用を  
かける効力が薄いまゝたということとが一つ、そ  
から大むね、蚊、蚊の撲滅ということが、単に市役  
所だけの仕事としてやるよりも、むしろ、各個  
人々々が関心をもつて、できるだけ皆さんで一緒  
にやつて行くことの方が、効果的であるというふうな

ことから、今申し上げましたように部落とか、婦人会等の団体とかそういった集りの共同作業として、葉を幹旋してやつてもらう。敷布につきまゝは市の方で電動の噴霧器を二台購入いたしまして、それから、手動の噴霧器を二台ほど用意いたしまして、できるだけ利用していただくようにやっておるつもりでございます。

・二九番(萩生田七郎君) 商工課長さんにお伺いいたします。  
商工費街路灯の建設補助金一灯について、一万円一灯、どう位かかっておるのか。

・商工水産課長(羽山秀雄君) 答えいたします。

今回設置いたします水銀灯は、那古商店連盟で設置します三々灯が一マワットでございます。これは一灯について、二万九千九百円、それ以外は

銀座振興会、長須賀商業会、下町商店会、  
中央商店会、こゝらの商業会で設置します  
水銀灯は二五ワットで一灯が二万二千二百円、  
この一三五灯の総体の経費が四百二十七八千円  
でございます。こゝを平均いたしますと、一灯あ  
たり三万六千六百八十八円になります。

・二九番(荻生田七郎君)財産費についてお伺いしたいので  
すが、財産管理費工事請負費の四万円、警察取締  
員の賃金の修理費のようござえますが、警察取締  
度の改革に伴います。こゝに段階があれば、  
果に寄付した方がいゝのではないかと思ひますが、  
こゝに對して当局の考えを聞きたいと思ひます。  
・助役(小出武男君)この建物につきまして、昨年から  
市で引きついたことは、昨承知かどうかと思ひます。

実はあの時分にも県の方に寄付の意見があったのでございしますが、これは各市町村とも県は引き受けないで、いいことか、悪いことか知りませんが、一応自決体でやってみようという形式を取っているのが、館山市だけを受けけるわけには、いかないから是非お願いをするということを受け持っているわけでございます。お説の通り理論から行けば県でもってもらうのが妥当だと思ひますけれども現状がさう段階にいかつたりませんことを申し上げます。

・三四番(松本藤太郎君)一般会計の歳入市税の市民税ですが、これが六分六厘一千万余の追加更正がさかまっております。

三千七百九十五万五千円ですか。当初予算のときさらに昨年の暮れですか、地方税法が改正になった

時に旧法と新法では二千万余の増収が予想されるのでお伺いしたのですが、その時には当局ではわかりがない。こういうことであつたのですが、そういうことが事実であるならばこういった追加更正はないと思うのだがその点をお伺いしたい。何故にこのいった一千万余の追加更正をしなければならぬのか。

・税務第一課長(高木惣三君)も答へたいです。三六年度におきまして各官庁ベース・アップそれから会社というところが成績がずつと上りましてそれが一番の原因でございます。

総所得金額で行きますと三五年度の総所得金額と三六年度分の総所得金額では五一%も増になつております。そんな関係で一千万余の誤差が



できたわけですが、三五年分り十以下  
の所得から二十万、二十万から五十万、五十万から百  
万、この段階別に調べ三六年度の所得につい  
て出て見ましたが、三五年十以下三七四九人  
ございました。それが三六年度になりますと、五  
六九人、十から二十万の人が六二人、三六年度には  
ふえております。二十万から五十万、四二人、五十  
万から百万ハ七人、それから百万から百五十万で三  
五年と三六年度の差が七人ふえております。

それから百五十万から二百五十万までが、三五年  
には三人でしたが、それが三六年度には、一人、一  
五人ふえております。こういうふうな伸びがあった  
ので一千万余の誤差が出てきたわけでございます。

・三四番(松本藤太郎君)課長さんのお話ですと三五年

と三六年度との所得に大きな違いがあった。伸びが  
あつたから、こうなつたのだとおっしゃいますけれども  
もそうじゃなく、私う聞いてゐるのは、旧法と新法の  
ことをいつてゐる。ですから本年度からは、税法  
がかつた所得税と同じように、総所得を基礎  
に、社会保険だとか生命保険だとか、さうい  
うものを控除するようになった。市民税にさら  
には給与所得控除、これは所得税と同じ額が控  
除されるけれども、基礎控除になると、所得税  
より市民税の方が控除額が少ない。市民税は  
九万一千円引かない。所得税は配偶者控除が九  
万円あるけれども、市民税は一銭もない。扶養控除  
だつた。所得税の方は一五万五千元以上が五万円、一五万  
未満三万円、市民税は、さう引かない。一人だけが

七万円であとは三万円、同じ方式でやるように税法  
がかわつても控除する額が所得税の控除と市  
民税の控除が違つておる。私は素人なりに三六  
年度に払つた所得税旧法です。それを基礎  
にして旧法によるところの百分の二を乗じて、そ  
れが均等割の四百円をたせば市民税なんだそ  
うです。ところが今度市でもつて配布した  
令書を見ると同じ三六年度の所得から、今行  
つたように所得税の控除と市民税の控除と違ふ。  
少ない控除を一つそれに準拠税率でやると非常  
に違いが生まれる。同じ三六年度、総所得をも  
とにして所得税が取り小る。その所得税をもと  
にして市民税が幾ら同じように三六年度の所  
得税を基礎に市民税の課税をして、私は表を

二 食 料 日 常 費  
依ったうだけいども六二%増額、三六年度に払  
った税金と三七年度に払った税金を比較してみ  
ると倍になる。低額の人はおそらく倍以上にな  
ってゐるであらう。

さういうことが出て来てゐる。だから、旧法と新法は  
かわりがないうことに間違ひはないかと私は聞  
いてゐる。伸びは当然伸びてゐますけれども三  
六年度の所得を基礎に、所得税も市民税  
もやるのだから、同じ基礎にする所得額から控  
除するものが違つてゐる。さういう数字が出る。  
どうですか、資産表を依つてみたら、議会であんなに  
さういうことをおっしゃる。或いはまたさう聞つて  
報ずるか、あつたにも堂々と出てゐるのですか、  
さう通りなら結構です。——かし、そこに差がある。

要するに六〇%以上も新法と旧法では違ふ。

かわりがないうというあんたもやってみたらいいでしょう。  
おそろくという数字がでてくるでしょう。私う言  
つてゐることが間違つてゐるとすくばもう一ぺん  
考え方をなおします。その点について。

・税務第一課長(高木哲三君)新法と旧法では所得が  
同トならば税額は大体同トになります。

所得税の二〇%と今度の基準税率にやつた税  
額では大体同トに出ております。ただ所得が  
ふえてゐる関係で県民税が二割五分高くなつた  
そへがございますので、令書の数字は高くな  
つております。

・三四番(松本藤太郎君)三六年度で新法と旧法でや  
ばいいんでしょう。私は県民税の方は全然ふく

ない。三六年度を基礎に、マオブション、ワンでやった場合、百分の二でやった場合、新法の基準税率でやった場合、この二つでやった場合、そういうものが出てくる。あんたやったんでしよう。

・税務第一課長(高木哲三君) そんな理由がありませんから、計算してやりまいたが、大体同じです。基準が違つてゐるんでないでしようか。

・三四番(松本藤太郎君) 基準というところのことではうか。

・税務第一課長(高木哲三君) その所得税の算出が、昔の算出方法でやつてあれば向違ひないと思ひますが、三六年度の所得の……、

・三四番(松本藤太郎君) 私の言うのは、三六年度の市民税の新法を言つてゐる。

・税務第一課長(高木哲三君) 三五年度の所得が三七年度にかからうから、そういう意味で三五年をやったわけです。

・三四番(松本藤太郎君) 私というのは、今度の新法によるところの本文の基準税率でいった場合を比較して見る。こういうわけです。そう、試算表をお作りになりましたか。とにかく、その表を作って議会が終つてもいいから、それを配布して貰いたい。それを願ひておきます。

・二七番(鈴木市蔵君) 市民税は昭和三六年の税を一年遅れて三七年で取るか、それとも三六年度の所得を基礎にして税金を取るか。

・税務第一課長(高木哲三君) 前年度の所得によらず取ります。三六年度の市民税は三六年度の所

得ということになります。

・二七番(鈴木市蔵君)そうすると三七年度にいない人を取つておる。これはどういう意味ですか。一年繰り下るやうにわかるが。

・税務第一課長(高木哲三君)一月一日現在館山市に住所を構えておれば三七年度一月以後になくても館山市に納税義務があると思います。

・二七番(鈴木市蔵君)そうすると三七年度の税というもつに對しては三六年度の所得の基礎によつて取るわけじゃないですか。一年繰下ということになるね。これをあとでよく論議いたしましょう。

・議長(山本昇君)おわかりいたします。議案第五六号及び五七号討論省略原案通り可決いたします。ことに中興議ございませんか。



（「異議なり」と呼ぶ者あり）

・議長（山本昇君）中異議なりと認めます。よって本案は原案通り可決さふまゝです。

日程第二、議案第五八号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第五八号 資金前渡をなすことのできる経

費について

・総務課長（山口実君）議案第五八号について、中説明申し上げます。

ここに掲げてあります二項の件につきまゝ、

従来、資金前渡の方法がなかつたために現金の納付に非常に不便を感じたのでございます。

これらの課目を資金前渡をするには、議会の同意を経る。このように地方自治法施行令

一五三条に銘記されておるのであります。よつて議会の協賛を得ようというものでございます。議長(山本昇君)おわかりいたします。議案第五八号原案通り可決いたしますことに決ま

議ございせんか。(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君)此異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決いたします。

日程第二議案第五九号及び六〇号を一括上程いたします。

(書記朗読)

議案第五九号 清掃用トラックの購入について

議案第六〇号 清掃用ダンプトラックの購入について

・厚生課長(伊藤幸太郎君)此説明申し上げます。

現在清掃用のトラック三台で作業を行なつてゐるわけでございますが、三台とも中古品を購入いたしまして約二年間やつて参つたのでございしますが、もう相当いたんで参りましてたので当初予算におきまして起債を財源といたしまして四台更新いたということでは予定をいたしましたわけでございますが先ほど申し上げましたように半額の二百万の起債の許可がいたに過ぎませんのでこの機会に一台をダンプ・カーあとの二台を普通の中型トラックということにいたしたいということでございます。ダンプ・カーにつきましては作業能率がどの程度普通の自動車と違ふかという一つの試験的にも考えられますので一台だけダンプカーを購入いたしまして能率を上げて参りたい。購入につきま

「マダ、ここにございますように、日産におきまして二台、トヨタのダンプ一台購入いたした、ということでございます。ますのでよろしくお願いいたします。」

・議長(山本昇君)おかけいたします。議案第五九号及び六〇号原案通り可決いたしますことに、中々議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(山本昇君)中々議なしと認めます。よつて兩案は原案通り可決さした。

日程第三三議案第六一号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第六一号 忠霊塔石工事請負契約の締結に

ついて

・厚生課長(伊藤幸太郎君)忠霊塔の契約につきまゝ、

や説明申し上げます。

忠霊塔の建設につきましても、先ほどもちつと申し上げました様に、遺族会からの強い要望に基きまして、いろいろと進めて参つたのでございます。従いましても、遺族会の方々の希望にならるべく、なるべく進めて参つたのでございます。現在まで至

ります経過につきましても、遺族会の役員の方々とくと、数回にわたりまして、打合せをいたしまして、或いは役員の方々と同行いたしまして、既存の忠霊塔も二回にわたりまして視察もいたしまして、その形、或いは大きさ等につきましても充分検討をいたしまして、別紙のような形式と大きさによりまして、八幡神社の一角にこれを建立したいということで進めて参りました。

契約につきましては視察をいたしまして、都度、二三  
の会社と懇談もいたします。見積り等もあら  
かじめ微一ま一、いろいろ検討もいたしましてございま  
す。さらに市内の業者の関係もございします。  
でその面でお話し合いもいたしまして、結論とい  
うよりもここにございしますように中野組石材工業と  
二百十二万の金額をもつてこの工事の請負契約  
をいたしたいということとございします。仕事の仕  
賃上、随意契約にすりまして締結したいという  
わけとございしますのでよろしく願っています。

・議長(山本昇君)おはかりいたします。議案第六一号  
討論者略原案通り可決いたしますことにや異議  
ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長（山本昇君）中異議な—と認めます。よつて本案は原案通り可決さ—ました。

おはかりいた—ます。

只今、市長から議案第六二号乃至第六四号が提出さ—ました。

こゝ際、三議案を日程に追加—、議題といた—ます。中異議ござ—いませんか。

（「異議な—」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）中異議な—と認めます。よつて日程は追加さ—ました。

議案を配付いた—させます。

（議案配付）

議長（山本昇君）議案の配付漏れはござ—いませんか。

—と認めます。

議案第六二号及び六三号を一括議題といたします。

(書記朗読)

議案第六二号

会計機の購入について

議案第六三号

宛名印刷機の購入について

。総務課長(山口実君)

議案第六二号について説明申し上げます。

ます。

現在わが国で使用している会計機はほとんど輸入品でございまして、只今まで先進地等を視察いたし、まして使用している会計機はバロス、これはアメリカ製でございまして。

次にナショナル、これもアメリカ製でございまして。

次にルフ、これはスイス製でございまして。主としてこの三つの会計機が日本の会社等に使用されてい

るのでございます。



これらの会計機を選定するにつきまゝ先進地の視察、或いは展示会におきまゝ比較した結果一番自治体で使われているのがこのバロスでございます。県下の先進地六市町で六、県庁で九、合計二十一台程度を使われております。

ナショナルについて、柏、ルフについて、習志野、五井町、こういったデーターと実際事務員が行つて見まゝに性能等を勘案いたしまして、このバロスに決定したのでございます。

次に議案第六三号宛名印刷機の購入でございしますが、これはやはりバロスの会計機とマッチした印刷機でございまして、これも只今申しまゝ先進地で多く使用されている。その点の点を勘案いたしまして、ご希望する次第

でございます。

一七番(志村信作君)追加の予算にこういうものをつけるということは、適当でない。当初予算にのせるべきだと思ひますが、

・総務課長(山口実君)その点でございしますが、市長の議案説明にあつた通り、こういう計画は当初に予定するよう要望があつたのでございしますが、当市の財政事情といふことも、いろいろ膨大な額を盛るには、尚早でございまして、一応確定財源を見てからといふことで延ばしていただくわけでございます。

・議長(山本昇君)おわかりいたします。

議案第六二号及び六三号原案通り可決いたしますことにや異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇君) 此異議なしと認めます。

つて兩案は原案通り可決さいます。

議案第六四号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第六四号 乗用自動車を購入について

・総務課長(山口実君) 議案第六四号について説明申上げます。現在乗用車は二台ございまして、そのうち一台は近く車検等の関係で修理するため工場に行く予定でございまして、此の時期に使える車が一台になるわけでございます。なお先般廃車になりましたマキユリーのかわりに新しい車を購入するように計画したのでございます。

只今、六三年式でもつて直ちに手に入る車は、グレ

と日産セドリック二台でございます。もう一台トヨベ  
ットクラウンがございしますが、これはずっと先になる  
予定でございます。この二台を選定研究いたし  
てございますがセドリックの方はやはり形が完全で  
ない。プリンスは最近改良されております。

・ニセ番(鈴木市蔵君) ちよっと伺いますが、いつか自動  
車を購入するときに意向いたのですが、努めて一  
年位たったら、車を更新してやりたいというふうな  
答弁があつたんですが、どういうふうな考え方を  
もつておりますか。もう一度。

・助役(小出武男君) 順次更新して行きたいと思ひます。  
期間につきましては、一年という約束もできないと  
思ひますが、予算とくらひ合わせまして更新し  
て行きたいと思ひます。

・議長(山本昇君)おはかりいたします。

議案第六四号、原案通り可決いたしますことに  
ち異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(山本昇君)ち異議なしと認めます。

よつて本案は原案通り可決さいます。

おはかりいたします。本定例会の会議に付議

さいます件はすべて議了さいます。よつて本

議規則第七条の規定により本日をもつて本

会いたいますと思ひます。

こゝにち異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(山本昇君)ち異議なしと認めます。よつて本

定例会は本日をもつて閉会いたいますことに決

定いた—ました。  
肉会いた—ます。

午後六時五十分

肉会

本日の会議に付いた事件。

一議事日程に同ト

出席議員

山本 昇

石井 孝

三沢 節

小林寅之助

江田徳太郎

鈴木彦太郎

吉田勇治郎

佐野 信

鳩 賢 壯 作

安 沢 徳 順

法木嗣郎

嶋田 繁

遠山ヨネ子

志村信作

安西政治

田中忠蔵

北山茂雄

後藤巾之

田中祿郎

吉田辰雄

飯田義男

脇田順一

岩崎靜敬

鈴木市蔵

加藤良太郎

荻生田七郎

長谷川光江

鈴木 孝

山口幸三

松本藤太郎

黒川佐太郎

山口 康

欠席議員

田村喜兵衛

昭和三十七年九月二十七日

右会議の次第を録しここに署名す

館山市議会議長

山本 昇

同 署名議員

田中 忠藏

同

江田 徳太郎



